挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図47	6	A区	DU-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	土師器	埦	内外面ともに荒れが著しく調整不明。	3688	6	
	7	A区	SD-208・209間	Ⅱ-2-⑤層	SS-31上面	土師器	皿	全周の4/5ほどの破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	3683	6	
	8	A区	SD-208・209間	Ⅱ-2-⑤層	SS-314上面	土師器	皿	底径から皿と判断した。ただし、器体が歪み、推定底径は6.1～6.6cm。底径6.1cmで図化。荒れが著しく調整不明。	3681	6	
	9	A区	DV-43区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	皿	全体に淡い黒褐色に焼き上げられている。内外面ともに回転横ナデ。	3755	6	
	10	A区	DV-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-312上面	土師器	坏	全周の1/3～1/4の破片。器面は荒れ、外底面が回転ヘラ切り離しであること以外は調整不明。	3685	6	
	11	A区	SD-208・209間	Ⅱ-2-⑤層	SS-311・314上面	土師器	坏	内面は回転横ナデ、外面は荒れが進み調整不明。	3680	6	
	12	A区	調査区東半部	Ⅱ-2-⑤層		土師器	坏	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに荒れが著しく調整不明。	3749	6	
	13	A区	調査区東半部	Ⅱ-2-⑤層	水田面検出時	土師器	坏	全周の1/8ほどの破片のため底径はやや不確実。外面は回転横ナデ。内面は非常に丁寧なナデ仕上げ。外底面の切り離しの方法は不明。	3758	6	
	14	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-309上面	土師器	坏	全周の1/6ほどの破片。内外面とも器面の荒れが進み調整不明。	3801	6	
	15	A区	DS-43区	Ⅱ-2-⑤層	SS-304上面	土師器	坏	全周の1/5ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3799	6	
	16	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	土師器	坏	全周の1/6ほどの破片。器面の荒れが進み調整不明。	3800	6	
	17	A区	調査区東半部	Ⅱ-2-⑤層	水田面検出時	土師器	坏	全周の1/8ほどの破片のため底径はやや不確実。内外面ともに荒れが進み、器面の調整や外底面の切り離し方法は不明。	3759	6	
	18	A区	DW-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	坏	全周の1/7ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3757	6	
	19	A区	DT-43区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	坏	全周の1/7ほどの破片のため底径は不確実。外面は回転横ナデ、内面は荒れが進み調整不明。	3760	6	
	20	A区	DW-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	坏	全周の1/3ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3754	6	
	21	A区	DV～DX-44・45	Ⅱ-2-⑤層	SS-314・316検出時	土師器	坏	全周の1/4ほどの破片。外面は回転横ナデ。内面は指頭によるナデ調整。	3797	6	
	22	A区	DW・DX-44・45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-314上面	土師器	坏	全周の1/7ほどの破片。外面は回転横ナデ。内面は指頭によるナデ調整。	3796	6	
	23	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3753	6	
	24	A区	DS-41・42区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに荒れが著しく調整不明。	3750	6	
	25	A区	DS-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	小片のために復元底径はやや不確実。内外面ともに回転横ナデ。外底面は荒れが進み、切り離し方法は不明。	3752	6	
	26	A区	DU-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	土師器	埦	全周の1/7ほどの破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	4409	6	
	27	A区	DU-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	土師器	埦	全周の1/7ほどの高台部破片。外面は横ナデ。内面はミガキ仕上げと思われるが、荒れが進み判然としない。	4411	6	
	28	A区	SD-208・209間	Ⅱ-2-⑤層	SS-314上面	土師器	埦	全周の1/4～1/5の破片。外面は回転横ナデ。内面は丁寧なナデ仕上げ。	3782	6	
	29	A区	DV-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-311上面	土師器	埦	接合しないが、同一個体と考えられる破片あり。高台部周辺は横ナデ。内面はナデ仕上げ。	4412	6	
	30	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	土師器	埦	全周の1/4ほどの破片。胴部外面～高台部は横ナデ。内面は荒れが進み調整不明。	4408	6	
	31	A区	DU-43区	Ⅱ-2-⑤層	SS-311上面	土師器	埦	全周の1/6ほどの破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	4410	6	
	32	A区	DW-45区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	ほぼ全周の胴部下半～底部の破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	4405	6	図版36-⑭
	33	A区	DV-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-311上面	土師器	埦	全周の1/2ほどの胴部下半～底部の破片。胴部外面～高台部は横ナデ。外底面には回転横ナデの痕跡が残る。内面は荒れが著しいが、部分的にミガキ痕が残る。	4407	6	図版36-⑬
	34	A区	DW-45区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	全周の4/5ほどの胴部下半～底部の破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	4406	6	
	35	A区	DV-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	全周の1/5ほどの破片。外面は回転横ナデ。外底面と内面は荒れが進み調整不明。	3790	6	
	36	A区	DU-43区	Ⅱ-2-⑤層	SS-311上面	土師器	埦	全周の1/7ほどの破片。高台部周辺に回転横ナデの痕跡を観察できる以外、器面の荒れが著しく、調整不明。	3803	6	
	37	A区	DX-45区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	全周の1/7ほどの破片。内外面ともに荒れが著しく調整不明。	3802	6	
	38	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	埦	全周の1/2ほどの破片。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3787	6	
	39	A区	DU-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	柱状高台付土器？	内外面ともに器面の荒れが著しく調整不明。	3810	6	
	40	A区	DV-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-311上面	土師器	柱状高台土器	外面は回転横ナデ。内底面は指頭による押さえ痕が残る。	3795	6	図版36-⑮
	41	A区	DW-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	柱状高台土器	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3751	6	
	42	A区	DU-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-311上面	土師器	土鍋	底部片。外面は乱雑なケズリ調整で、外底面を中心として粘土接合痕が残る。内面はナデ仕上げ。	3852	6	
	43	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層		土師器	柱状高台付土器？	口縁部周辺は指頭によるナデ。口縁部と台部の屈曲点付近はヘラ状工具で押さえながらナデ。	3813	6	図版36-⑯
	44	A区	DW・DX-44・45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-314上面	黒色土器	埦	内黒土器。外面は横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	4135	6	

挿図	遺物№	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図47	45	A区	DU・DV-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-312上面	黒色土器	埦	内黒土器。外面は横ナデ。内面は部分的にミガキ仕上げの痕跡が観察できるのみ。	4134	6	
	46	A区	DW-45区	Ⅱ-2-⑤層		黒色土器	埦	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ調整。	3710	6	
	47	A区	調査区東半部	Ⅱ-2-⑤層	水田面検出時	黒色土器	埦	内黒土器。全周の1/4ほどの破片。外面は荒れが進み調整不明。内面はミガキ仕上げ。	3756	6	
	48	A区	DU-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	黒色土器	埦	内黒土器。全周の3/1強の破片。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3843	6	
	49	A区	調査区東伴部	Ⅱ-2-⑤層		黒色土器	埦	内黒土器。全周の1/5ほどの破片。外面は荒れが進み調整不明。内面はミガキ調整。	3702	6	
	50	A区	DV-45区	Ⅱ-2-⑤層		黒色土器	埦	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げであるが、内底面はかなり乱雑なミガキ。	3770	6	図版36-⑫
	51	A区	DW-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-314直上	黒色土器	埦	内黒土器。胴部～高台部は回転横ナデ。内面は荒れ調整不明。	3696	6	
	52	A区	DU-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	黒色土器	埦	内黒土器。胴部下半は回転を利用してヘラ状工具をナデつけ。上半は回転横ナデ。内面はミガキ。	3748	6	図版36-⑪
	53	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層	SS-308上面	黒色土器	埦	内黒土器。全周の1/5ほどの破片。高台部周辺は回転横ナデ。内面はミガキ調整。	3698	6	
	54	A区	DU-44区	Ⅱ-2-⑤層		瓦	丸瓦	土師質。凸面部の玉縁端面には櫛歯状の調整具痕が残る。他はナデ仕上げ。凹面部には布目圧痕が観察できる。	3814	6	図版36-⑰
図48	1	A区	DU・DV-45区	Ⅱ-2-⑤層	SS-312上面	須恵器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	3807	6	
	2	A区	DS-44区	Ⅱ-2-⑤層		須恵器	蓋	内外面ともに回転横ナデ。	4181	6	
	3	A区	DW-45-6～10区	Ⅱ-2-⑤層	SS-314上面	須恵器	高坏	脚部の内外面は回転横ナデ。坏部底面は指頭で回転ナデ。	3805	6	
	4	A区	DS-43区	Ⅱ-2-⑤層		須恵器	壺	頸部から肩部にかけての全周の1/4ほどの破片。内外面ともに横ナデ。	3791	6	
	5	A区	調査区東半部	Ⅱ-2-⑤層		須恵器	坏	身部の破片。口縁端部を欠損。内外面ともに回転横ナデ。	3794	6	
	6	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層		須恵器	壺または甕	器体の傾きは不確実。外面には平行条線のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕が残る。	3793	6	
	7	A区	DT-45区	Ⅱ-2-⑤層		須恵器	壺または甕	底部近くの破片。器体の傾きは不確実。外面には平行条線のタタキ目が残る。内面はナデ調整であるが、部分的に指頭による強いナデ調整が施されている。	3792	6	
	8	A区	DW-45-6～10区	Ⅱ-2-⑤層	SS-314上面	弥生土器	壺	口縁端部片。小片のために器体の傾きは不確実。内外面ともに横ナデ。	3812	6	
	9	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層		弥生土器	甕	大型甕の平底破片。外面は荒れが著しく調整不明。	3786	6	
	10	A区	DS-44区	Ⅱ-2-⑤層		弥生土器	壺	平底破片。外面は荒れが著しく調整不明。内面はナデ調整。内面は黒変のまま。	3785	6	
	11	A区	DT-44区	Ⅱ-2-⑤層		弥生土器	甕	平底の底部片。外面は荒れが著しく調整不明。内面は指頭によるナデ仕上げ。	3809	6	
図50	1	A区	DS-42・43区	SD-301	埋土①～②層	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデ。外底面の切り離し方法は不明。	3849	7	
	2	A区	DT-42・43区	SD-301	埋土②層	土師器	皿	全周1/6～1/7の破片。内外面ともに荒れが進み、調整不明。内外面ともに灰白色に焼き上がる。	3845	7	
	3	A区	DT-42・43区	SD-301	埋土③層	土師器	皿	全周の1/7ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。外底面はナデ仕上げ。	3686	7	
	4	A区	DS-42区	SD-301	埋土③層	土師器	坏	全周の1/4ほどの破片。外面は二次的な火熱を受け赤変するとともに、荒れが進み調整不明。内面は回転横ナデ。	3682	7	
	5	A区	DU-43区	SD-301	埋土①層	土師器	坏	推定底径は不確実。内外面ともに黒変したままで、器面の荒れが著しく調整不明。	3842	7	
	6	A区	DU-43区	SD-301	埋土①層	土師器	坏	全周の1/4ほどの破片。外面は荒れが著しく調整不明、内面はナデ調整。外面は灰白色に焼き上がる。	3844	7	
	7	A区	DS-42・43区	SD-301	埋土②層	土師器	埦	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに器面の荒れが著しく調整不明。	3837	7	
	8	A区	DU-42・43区	SD-301	埋土①層	土師器	埦	全周の1/7ほどの破片。底部側端は摩滅し稜角を欠く。内外面ともに回転横ナデ。	3838	7	
	9	A区	DU-43区	SD-301	埋土①層	黒色土器	埦	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3847	7	
	10	A区	DU-43区	SD-301	埋土②層	黒色土器	埦	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3846	7	
	11	A区	DV-42・43区 西半部	SD-301	埋土	黒色土器	埦	内黒土器。胴部外面は回転を利用したヘラケズリ。内面はミガキ仕上げ。	3806	7	
	12	A区	DS-42区	SD-301	埋土①層	須恵器	甕あるいは壺	器体の傾きは不明。外面には併行条線のタタキ目を施した後にカキメ調整。内面には同心円文の当て具痕が残る。	3841	7	
	13	A区	DT-42区	SD-301	埋土①層	須恵器	甕あるいは壺	器体の傾きは不明。外面には平行条線のタタキ目を施した後にカキメ調整。内面には同心円文の当て具痕が残るが、軽くナデ消されている。	3840	7	
	14	A区	DT-42区	SD-301	埋土①層	須恵器	甕あるいは壺	器体の傾きは不明。外面には平行条線のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕が残る。	3839	7	
	15	A区	DS-42・43区	SD-301	埋土③層	弥生土器	壺	内外面ともに回転横ナデ。	3832	7	
	16	A区	DU-42・43区	SD-301	埋土③層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。口縁端面には赤彩痕跡が部分的に残る。	3835	7	
	17	A区	DS-42区	SD-301	埋土③層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3833	7	
	18	A区	DU-42・43区	SD-301	埋土①層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。口縁部外面には強い横ナデで段が生じている。	3834	7	
	19	A区	DT-42区	SD-301	埋土（試掘トレンチ部分）	弥生土器	甕	内外面ともに回転横ナデ。	3831	7	
	20	A区	DR-43-5区、DS-43-1・6区	SD-301	埋土下部（茶色土ブロック混じり）	弥生土器	深鉢	口縁部周辺は横ナデ。胴部外面は指頭によるナデ。内面は横ナデ。	4328	7	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図50	21	A区	DS-42区	SD-301	埋土③層上部	弥生土器	壺	全周の1/3ほどの破片。平底。外面～外底面は丁寧なナデ仕上げ。内面は荒れが著しく、部分的に指頭圧痕が観察できるのみ。	3830	7	
	22	A区	DS-42区	SD-301	埋土③層上部	弥生土器	甕	全周の1/3ほどの破片。平底。外面は、一見ミガキ調整にみえるが、ヘラ状工具をナデつけている。内面および外底面はナデ。	3829	7	
	23	A区	DX-44区	SD-302	埋土	黒色土器	椀	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3850	7	
	24	A区	DX-44区	SD-302	埋土	黒色土器	椀	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3853	7	
	25	A区	DX-44区	SD-302	埋土	黒色土器	椀	内黒土器。厚でのつくり。外面は回転横ナデ。内面はミガキ調整。	3704	7	
	26	A区	DU-43区	SD-302	埋土	黒色土器	椀	内黒土器。全周の1/4ほどの破片。高台径はやや不確実。高台部～外底面は回転横ナデ。胴部外面は荒れが進み調整不明。内面はミガキの可能性が高いが、確実ではない。	3694	7	
	27	A区	DX-44区	SD-302	埋土	黒色土器	椀	内黒土器。外底面は回転横ナデ。内面はミガキ調整。	3700	7	
	28	A区	DX-44区	SD-302	埋土	黒色土器	椀	内黒土器。高台部～外底面は、回転横ナデ。内面はミガキ調整。	3701	7	
	29	A区	DS-45区	SD-307・SS-309間水口部	埋土	弥生土器	壺	口縁部上端を欠く。口縁端面には沈線状の凹線文を3条巡らす。内外面ともに横ナデ。	3811	7	
	30	A区	DW-45区	SS-314・316間水口部	埋土	土師器	坏	全周の1/5～1/6の破片。外面は回転横ナデ。内面は指頭によるナデ調整。	3798	7	
図51	1	A区	DS-42区	SD-301	埋土③層上部	石器	砥石	裏面が剥離した破損品で、残存重量は395.4ｇ。	4442	26	
図52	1	A区	DU-43-10区	SD-301	埋土①層	石器	打製石鏃	赤色頁岩製。基部を欠損。現存重量1.6ｇ。	4418	26	図版38-①
	2	A区	DT-42区	SD-301	南側肩部①層	石器	石斧	半裁しているが、扁平な片岩の端部に刃をつける。上面には自然風化面が残り、ほとんど加工されていない。転石利用の石斧。残存重量73.8ｇ。	4427	26	図版38-⑨
	3	A区	DS-45区	SD-307	溝底	石器	敲打具	やや扁平な円柱状の砂岩の両端と上面の一部に敲打痕が集中して残る。残存重量242.7ｇ。	4431	26	図版39-②
	4	A区	DT-43区	SD-302・SS-308間畦畔部	畦畔本体	石器？	石包丁？	扁平な片岩の半折資料。片面が大きく剥離。他は自然風化面が残る。手持ちできる程度の大きさと厚みから、石庖丁の未成品である可能性が考えられる。残存重量32ｇ。	4426	26	図版38-④
図53	1	A区	DW-45区	SS-314	耕作土層	土師器	皿	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3820	7	
	2	A区	DT-44区	SS-308	耕作土層	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデ。	3819	7	
	3	A区	DV-44区西半部	SS-311	耕作土層	土師器	椀	外面は暗文風のミガキ仕上げ。内面もミガキ調整が施されていると考えられるが、器面が荒れ判然としない。	3817	7	
	4	A区	DV-44区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土層下部	土師器	坏	全周の1/6ほどの破片。胴部内外面は回転横ナデ。	3653	7	
	5	A区	DW-45区	SS-314	耕作土層	土師器	坏	全周の1/7前後の破片。外面は荒れが著しく調整不明。内面は回転横ナデ。	3818	7	
	6	A区	DS-45区	SS-304	耕作土層	土師器	坏	全周の1/10の破片で底径は不確実。内外面ともに荒れが著しく調整不明。	3821	7	
	7	A区	DX・DW-45区	SS-317	耕作土下部	土師器	椀	全周の1/4ほどの破片。外面は回転横ナデ、内面は荒れが進み調整不明。	3788	7	
	8	A区	DV-44区西半部	SS-311	耕作土層	土師器	椀	全周の1/3ほどの破片。外面は横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	4404	7	
	9	A区	DW-45区	SS-314	耕作土層	土師器	土鍋	土鍋の口縁部片と考えた。内外面ともに横ナデ。	3822	7	
	10	A区	DU-44区	SS-308	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ調整。	3705	7	
	11	A区	DW-45区	SS-314	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。外面は回転横ナデ。内面はミガキ仕上げ。	3816	7	
	12	A区	DV-44区西半部	SS-311	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。内外面ともに回転横ナデ。	3815	7	
	13	A区	DW-44区	SS-314	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。外面は荒れ調整不明。内面はミガキ調整か？	3697	7	
	14	A区	DV-44区西半部	SS-311	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。外面は回転横ナデか？　内面はミガキ調整の痕跡が部分的に残る。	3693	7	図版37-①
	15	A区	DU-44区	SS-308	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。全周の1/3以上の破片。胴部上半は回転横ナデ、下半はヘラ状工具で強くナデつけ。内面はミガキ。高台部から外底面は横ナデ。	3747	7	
	16	A区	DV-44区西半部	SS-311	耕作土層	黒色土器	椀	内黒土器。外面は幅の広いミガキ痕が残る。内面もミガキ。高台部周辺は横ナデ。	3695	7	
	17	A区	DS-45区	SS-306	耕作土層	須恵器	坏	坏身の口縁部片。内外面ともに回転横ナデ。	3827	7	
	18	A区	DV-44区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土層下部	須恵器	高坏	無蓋高坏の坏部片と考えた。内外面ともに回転横ナデ。	3636	7	
	19	A区	DU-44区	SS-308	耕作土層	須恵器	壺？	径から壺の丸底片と考えた。外面はカキメ調整。内面はナデ仕上げ。	3823	7	
	20	A区	DW-44区	SS-314	耕作土層	須恵器	壺または甕	器体の傾きは不明。外面には交差する平行条線タタキ目が残り、最後に部分的にカキメ調整が施される。内面には同心円文の当て具痕が残る。	3825	7	
	21	A区	DW-45区	SS-314	耕作土層	須恵器	壺または甕	器体の傾きは不明。外面にはカキメ調整が施され、内面には同心円文の当て具痕が残る。	3824	7	
	22	A区	DX-45区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土層下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3603	5	
	23	A区	DW-45区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土層下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3604	5	
	24	A区	DV-44区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土層下部	弥生土器	甕	如意形口縁の小片。	3581	5	
	25	A区	DX・DW-45区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土下部	弥生土器	甕	底部側面には指頭で強くナデ上げ。脚台部端は横ナデ。外底面は指オサエ。内面は黒変のまま。	3789	5	
図54	1	A区	DS-43区	SD-302・SS-304間畦畔部	畦畔部	土師器	椀	全周の1/4ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3836	7	
	2	A区	DU-43区	SD-301・302間畦畔部	畦畔部	須恵器	壺または甕	器体の傾きは不明。	3826	7	

挿図	遺物№	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図54	3	A区	DS-43区	SD-301・302間畦畔部	畦畔部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3828	7	
図55	1	A区	DR-43区	SD-301・SS-303間畦畔部	畦畔部	鉄器	刀子	刃部の大部分と柄の端部が欠失する。残存重量4.2ｇ	4458	26	図版40-②(写真)、図版40-⑰（X線）
	2	A区	DW-45区	Ⅱ-2-⑤層		鉄器	刀子	鋒と柄を欠失する。残存重量2.9ｇ	4459	26	図版40-③
	3	A区	DV-45区	Ⅱ-2-⑥層	耕作土層下部	鉄器	釘	鉄釘の先端部付近の破片。残存重量6.1ｇ。	4465	26	図版39-⑪
図56	1	A区	DR-45区	SR-400	①a層	土師器	皿	全周の1/4ほどの破片。胴部内面は回転横ナデ。	3648	5	
	2	A区	DS-44区	SR-400	①a層下部	土師器	皿	全周の1/4ほどの破片。胴部内面は回転横ナデ。	3649	5	
	3	A区	DV-44区	SR-400	①a層中部	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	3659	5	
	4	A区	DU-44区	SR-400	①a層中部	土師器	坏	口縁部の小片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	3661	5	
	5	A区	DT-44区	SR-400	①a層下部	土師器	坏	内外面ともに荒れが進むが、回転横ナデの可能性が高い。器体の傾きはやや不確実。	3675	5	
	6	A区	DT-45区	SR-400	①a層上部	土師器	坏	内外面ともに荒れが進むが、回転横ナデの可能性が高い。	3676	5	
	7	A区	DR-45区	SR-400	①a層	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	3662	5	
	8	A区	DU-45区	SR-400	①a層中部	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	3647	5	
	9	A区	DS-43区	SR-400	①a層上部～中部	土師器	坏	全周の1/6ほどの破片。内面はナデ仕上げ。	3657	5	
	10	A区	DU-45区	SR-400	①a層中部	土師器	坏	全周の1/6ほどの破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	3658	5	
	11	A区	DS-43区	SR-400	①a層上部～中部	土師器	坏	全周の1/8ほどの破片。外面は荒れが進む。内面は回転横ナデ。	3656	5	
	12	A区	DW-44区	SR-400	①a層	土師器	坏	内外面ともに荒れが進み調整不明。	3684	5	
	13	A区	DS-45区	SR-400	①a層上部	土師器	坏	全周の1/6ほどの破片。胴部内外面は回転横ナデ。	3652	5	
	14	A区	DR-44区	SR-400	①a層内砂礫層	土師器	埦	内外面ともに回転横ナデ。	3651	5	
	15	A区	DV-44区	SR-400	①a層下部	土師器	埦	全周の4/5ほどの高台部～底部の破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	4413	5	
	16	A区	DV-44区	SR-400	①a層下部～中部	土師器	埦	内面はナデ仕上げ、外面は回転横ナデ。	3678	5	
	17	A区	DU-43区	SR-400	①a層下部	土師器	埦	全周の1/3ほどの破片。器体がやや歪み、復元底径は8.5～9㎝と一定しない。	3677	5	図版37-②
	18	A区	DU-44区	SR-400	①a層中部	黒色土器	埦	内黒土器。全周の1/5ほどの破片。断面三角形の高台をもつ。高台先端は小さな面ができている。	3699	5	
	19	A区	DT-45区	SR-400	①a層上部	瓦	平瓦	須恵質。	3664	5	
	20	A区	DU-44区	SR-400	①a層上部～中部	瓦	丸瓦	須恵質。	3665	5	
	21	A区	DU-44区	SR-400	①a層上部～中部	須恵器	蓋	蓋の摘み部片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	3643	5	
	22	A区	DR-44区	SR-400	①a層中部～下部	須恵器	高台付き坏	摩滅が進むが、内外面とも回転横ナデが施されていることを確認できた。	3635	5	
	23	A区	DT-44区	SR-400	①a層下部	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ。	3625	5	
	24	A区	DT-44区	SR-400	①a層下部	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ。	3637	5	
	25	A区	DT-45区	SR-400	①a層下部	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ。	3624	5	
	26	A区	DT-45区	SR-400	①a層下部	須恵器	高台付き坏	赤焼き須恵器。内外面ともに荒れが著しく、調整不明。	3646	5	
	27	A区	DT-44区	SR-400	①a層下部	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ。	3621	5	
	28	A区	DR-44区	SR-400	①a層中部～下部	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ、外底面は回転ヘラケズリの痕跡が残る。全周の1/3～1/4の破片。	3631	5	図版37-③
	29	A区	DU-45区	SR-400	①a層下部	須恵器	鉢	外面には指頭圧痕が全面に残る。内面は幅のヘラ状工具でケズリに近い強いナデ調整を施す。	3633	5	
	30	A区	DW-45区	SR-400	①a層下部	須恵器	皿	小片のため口径はやや不確実。	3638	5	
	31	A区	DU-45区	SR-400	①a層下部	須恵器	壺	外面は摩滅が著しく調整不明。内面は回転横ナデの後に不定方向のナデ。	3639	5	
	32	A区	DT-45区	SR-400	①a層中部	須恵器	甕または壺	器体の傾きは不確実。外面には縄席文のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕が残る。	3641	5	
	33	A区	DT-44区	SR-400	①a層上部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3616	5	
	34	A区	DS-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3613	5	
	35	A区	DT-44区	SR-400	①a層中部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3617	5	
	36	A区	DU-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	高坏？	坏部外面はヘラ状工具によるナデ。他は丁寧な横ナデ。	3609	5	
	37	A区	DU-43区	SR-400	①a層	弥生土器	壺	頸部の付け根に粘土紐を貼り付けて、指頭で押し潰すように、横長の大きめの刻目を施す。	3527	5	
	38	A区	DT-44区	SR-400	①a層下部	弥生土器	甕	口縁端部を肥厚させて摘み上げた端部をつくる。内外面ともに横ナデ。	3602	5	
	39	A区	DS-43区	SR-400	①a層上部	弥生土器	甕	口径は小片のためにやや不確実。内外面ともに横ナデ。	3608	5	
	40	A区	DR-44区	SR-400	①a層中部～下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3606	5	
	41	A区	DR-45区	SR-400	①a層	土師器	甕	口縁端部をごくわずかに欠く。	3583	5	
	42	A区	DU-44区	SR-400	①a層上部～中部	弥生土器	高坏	小型品。外面は荒れが進み調整不明。内面は指頭によるオサエの後に横ナデを施し、ミガキ調整で仕上げる。	3607	5	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図56	43	A区	DS-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	脚台付き鉢	内外面ともに横ナデ。	3614	5	
	44	A区	DS-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	高坏	内外面ともに横ナデ。	3673	5	
	45	A区	DV-43区	SR-400	①a層中部	弥生土器	把手	ジョッキ形土器の把手か？	3618	5	
図57	1	A区	DS-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	壺	外面～外底面はナデ、内面は指頭によるナデ。	3595	5	
	2	A区	DT-43区	SR-400	①a層上部～中部	弥生土器	壺	外面はヘラ状工具でやや強めのナデ調整。内底面は指頭で押さえてナデ上げる。	3597	5	
	3	A区	DT-43区	SR-400	①a層上部	弥生土器	壺	焼成不良品。外面は荒れが著しく調整不明。内面は焼成が不良なために剥落。	3598	5	
	4	A区	DU-44区	SR-400	①a層下部	弥生土器	鉢または壺	器面が荒れ調整は不明。内面はヘラ状工具による強いナデ。	3600	5	
	5	A区	DS-43区	SR-400	①a層上部	弥生土器	鉢または壺	外面は器面は荒れて調整不明。内面は時計回りにヘラ状工具によるナデを施す。	3599	5	
	6	A区	DU-44区	SR-400	①a層上部～中部	弥生土器	鉢または壺	外面はナデ、内面はヘラ状と考えられる工具でナデ調整を施す。	3601	5	
	7	A区	DT-44区	SR-400	①a層下部	弥生土器	甕	器面が荒れ調整不明。内面には指頭による圧痕が残る。	3592	5	
	8	A区	DU-45区	SR-400	①a層下部	弥生土器	甕	外面は縦方向のヘラ状工具によるナデ上げ。ミガキというほど光沢はない。内面は内底面から指頭で強くナデ上げる。	3590	5	
	9	A区	DS-43区	SR-400	①a層上部～中部	弥生土器	甕	わずかに上げ底の平底。外面は丁寧なナデ。内面は荒れが著しく調整不明。	3588	5	
	10	A区	DU-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	甕	外面～外底面は横ナデ。内底面は指頭によるオサエの後にナデ。	3589	5	
	11	A区	DS-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	甕	外面は脚台付近を指頭で押さえた後にヘラ状工具でナデ上げる。内面は指頭によるナデ。	3619	5	
	12	A区	DS-43区	SR-400	①a層上部～中部	弥生土器	甕	外面は荒れが進み調整不明。外底面は指頭によるナデ、内面も指頭による時計回りのナデ調整。	3591	5	
	13	A区	DV-43区	SR-400	①a層下部	弥生土器	甕	外面～外底面は指頭によるオサエの後に横ナデ仕上げ。部分的に指頭痕が残る。	3587	5	
	14	A区	DT-44区	SR-400	①a層上部	縄文土器	深鉢	器壁の芯部～内面は黒変したまま。	3671	5	
図58	1	A区	DS-42区	SR-400	②a層	弥生土器	壺	口縁部内外面は横ナデ、頸部外面は刷毛目調整の後に横ナデ、内面には指頭痕が残る。	3530	3	
	2	A区	DS-42区	SR-400	②a層	弥生土器	壺	外面にはミガキ痕跡が部分的に残る。内面は丁寧なナデ仕上げ。	3537	3	
	3	A区	DS-42区	SR-400	②a層	弥生土器	甕	口縁部周辺は横ナデ。口縁の屈曲部に粘土紐を貼り付けて爪で押し潰すように刻目を施す。	3519	3	
	4	A区	DS-42区	SR-400	②a層	弥生土器	甕	外面はナデ、内面は横方向のナデ。	3548	3	
	5	A区	DS-42区	SR-400	②a層	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向の板あるいはヘラ状工具によるナデ。内面には縦方向の擦過痕が残る。底部は横ナデ。底部から胴部への変換部には指頭痕が残る。	3542	3	
図59	1	A区	DV-44区	SR-400	②b層および①a層	土師器	坏	内外面ともに回転横ナデ。	3674	5	
	2	A区	DS-43区	SR-400	②b～②m層	土師器	柱状高台土器	内外面ともに回転横ナデ。外底面は荒れが著しく、調整不明。	3650	5	
	3	A区	DT-45区	SR-400	②b～②m層	須恵器	皿	内面は回転横ナデ。外面は荒れが進み調整不明。	3692	5	
	4	A区	DT-45区	SR-400	②b～②m層	須恵器	蓋	高台付き坏の蓋。内外面ともに回転横ナデ。	3627	5	
	5	A区	DT-43区	SR-400	②b～②m層	須恵器	高台付き坏	器体の傾きは不確実。焼きはあまく、瓦質に近い焼き上がり。内外面ともに回転横ナデ。	3654	5	
	6	A区	DS-44区	SR-400	②b～②m層	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ。	3626	5	
	7	A区	DV-45区	SR-400	②b～②m層	須恵器	高台付き坏	内外面ともに回転横ナデ。	3622	5	
	8	A区	DT-44区	SR-400	②b～②m層	須恵器	高台付き坏	内外面とも器表面が荒れ、調整不明。灰白色の焼き上がり。	3623	5	
	9	A区	DT-43区	SR-400	②b～②m層	須恵器	高台付き塊	胴部との接合面で剥離。内外面ともに荒れが進み、調整不明。	3645	5	
	10	A区	DT-45区	SR-400	②b～②m層	須恵器	壺	内外面ともに横ナデ。	3663	5	
	11	A区	DS-44区	SR-400	②b～②m層	須恵器	高台付き坏	大型品。全体の1/3ほどの破片。	3632	5	
	12	A区	DT-44区	SR-400	②b～②m層	須恵器	壺	高台付きの壺。	3629	5	
	13	A区	DS-43区	SR-400	②b～②m層	須恵器		外面は回転横ナデ。	3630	5	
	14	A区	DT-44区	SR-400	②b～②m層	須恵器	蓋	内外面ともに回転横ナデであるが、天井部外面はヘラ状工具でナデ調整する。	3634	5	
	15	A区	DV-44区	SR-400	②b～②m層	須恵器	坏	内外面ともに回転横ナデ、底部付近は回転ヘラケズリ。	3628	5	
	16	A区	DU-45区	SR-400	②b～②m層	須恵器	甕	内外面ともに横ナデ。	3644	5	図版37-④
	17	A区	DR-44区	SR-400	②b～②m層	土師器	壺	口縁部内外面は横ナデ。胴部外面は刷毛目調整の後にナデ。内面は指頭で強く乱雑に横ナデ。	3582	5	
	18	A区	SV-45区	SR-400	②b～②m層	土師器	甕	口縁端面内側に小さな面取りが施される。内面は横ナデ、外面は荒れが著しく調整不明。	3584	5	
	19	A区	DU-45区	SR-400	②b～②m層	土師器	甕	口縁端面内側に小さな面取りが施される。器体に歪みがあり、破片は大きいが、径は不確実。内外面ともに横ナデ、口縁屈曲部には部分的に指頭痕が残る。	3586	5	
	20	A区	DR-44区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3610	5	
	21	A区	DT-43区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3611	5	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図59	22	A区	DU-43・44、DV-44、DW-45区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	外面は荒れが著しく、調整は不明。口縁部周辺は横ナデ。頸部内面は指頭によるナデで、粘土接合痕が観察できる。	3511	1	
	23	A区	DV-44区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3612	5	
	24	A区	DU-44区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	外面は刷毛目調整の後に横ナデ。内面には絞り痕と、それを消そうとした使用によるナデ痕跡が残る。	3615	5	
	25	A区	DU-45区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	内外面ともに摩滅が進み、頸部内面に部分的に指頭圧痕が観察されるのみ。	3579	5	
	26	A区	DU-43区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	壺	外面はミガキ。内底面は時計回りに指ナデ、胴部内面はヘラ状工具による擦過痕が部分的にみられる。	3620	5	
	27	A区	DW-45区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3605	5	
	28	A区	DS-43区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3585	5	
	29	A区	DT-45区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3580	5	
	30	A区	DR-44区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	高坏	内外面ともに横ナデ。	3672	5	
	31	A区	DV-44区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3594	5	
	32	A区	DT-43区	SR-400	②b～②m層	弥生土器	甕	外面は横ナデ、内面は縦方向のナデ。	3593	5	
図60	1	A区	DR-43区	SR-400	②a・②b層	弥生土器	壺	小片のため口径は不確実。内外面ともに横ナデ。	3532	3	
	2	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3531	3	
	3	A区	DR・DS-41・42区	SR-400	②b層	弥生土器	壺	内外面ともに荒れが進み調整不明。	3529	3	
	4	A区	DR・DS-41・42区	SR-400	②b層	弥生土器	壺	外面は、胴部中位以上を縦方向のナデ調整し、下半は横方向のミガキで仕上げる。内面は指頭によるナデ調整。粘土板の接合部分に指頭痕が帯状に残る。	3512	1	
	5	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	胴部の内外面はナデ、口縁部周辺は横ナデ。	3510	1	
	6	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3533	3	
	7	A区	DR・DS-41・42区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3521	3	
	8	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	内外面ともに荒れが進むが、部分的に横ナデ調整の痕跡が確認できる。	3522	3	
	9	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	推定口径18～23cm。器体の歪みが大きいためか。口縁部は横ナデ。胴部の内外面は丁寧なナデ仕上げ。	3517	3	
	10	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	外面は荒れが著しい。	3502	1	
	11	A区	DR・DS-41・42区	SR-400	②b層	土師器	皿？	内外面ともに回転横ナデ。外底面は切り離しの後にナデ仕上げを施すため、切り離し方法は不明。	3576	4	
	12	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	壺	胴部の外面には幅2.5～3mmの縦方向のミガキ痕が残る。外底面はナデ調整。内面は、内底面に指頭による強いナデを加えた後に、その上方に時計回りにケズリを施す。	3501	1	
	13	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	壺	平底。外面は非常に丁寧なナデ。ミガキに近い。内面はナデ。	3551	3	
	14	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	壺	わずかに上げ底。外面はミガキ、内面は乱雑なケズリ調整。	3538	3	
	15	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向の板あるいはヘラ状工具によるナデ。脚台状の底部側面には指頭痕が残る。内底面と外底面には指頭痕と粘土接合痕が残る。	3543	3	
	16	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	高坏	坏部は丁寧なナデ。内面は口縁部に横ナデ、坏部には乱雑なミガキ調整が施される。	3507	1	
	17	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	高坏	内外面にミガキをを施し、口縁部付近と坏部の境界部を横ナデ調整。	3503	1	図版37-⑦
	18	A区	DT-43区	SR-400	②b層	弥生土器	高坏	外面はナデ調整であるが、下半部は内外とも横ナデ。内面には指頭によるナデ。	3506	1	
	19	A区	DT-43区	SR-400	②b層	焼成泥土塊		砂礫混じりの砂質シルトが焼けかたまった塊。	3578	4	図版37-⑤
	20	A区	DT-43区	SR-400	②b層	縄文土器	深鉢	器体の傾きは小片のため不確実。	3509	1	
図61	1	A区	DT-44区	SR-400	②i～②k層	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデ。	3660	5	
	2	A区	DW-45区	SR-400	②l・②m層	土師器	坏	内外面ともに荒れが進み調整は不明である。	3566	4	
	3	A区	DT-43・44区	SR-400	②i～②k層	弥生土器	壺	口縁端部を上下に拡張し、4条の沈線状の凹線文を1条ずつ巡らす。	3525	3	
	4	A区	DW-45区	SR-400	②l・②m層	弥生土器	甕	推定口径20～20.5cm。全体に器表面の荒れが進む。胴部外面には部分的にミガキ調整痕が残る。	3516	3	
図62	1	A区	DT-43・44	SR-400	②e層	弥生土器	壺	口縁部～頸部は内外面ともに横ナデ。胴部外面は縦方向のミガキ、内面はナデ。	3515	2	図版37-⑥
	2	A区	DT-43・44	SR-400	②e層	弥生土器	壺	胴部外面の下半は縦方向、中位は横方向のミガキを時計回りに施す。内面は下半をヘラ状工具でナデ、上方に行くほど雑になる。中位は刷毛目調整の後にナデ仕上げ。刷毛目は部分的にしか残っていない。	3514	2	
図63	1	A区	DS-43区	SR-400	②e層	須恵器	蓋	内外面ともに回転横ナデ。	3655	5	
	2	A区	DT-43・44区	SR-400	②e層	弥生土器	壺	外面は横方向のミガキ。内面はヘラ状工具で上方に向けてナデ上げ。ヘラ状工具の痕跡が残る。	3545	3	
	3	A区	DT-43・44	SR-400	②e層	弥生土器	甕	外面はミガキ、内面は乱雑な指頭によるナデ調整。底部側面はミガキの後に横ナデを施す。	3541	3	DS-42・43区下層水田SD-301①～②層出土の破片と接合
	4	A区	DT-43・44区	SR-400	②e層	弥生土器	甕	外面はナデ。	3550	3	
	5	A区	DT-43・44	SR-400	②e層	弥生土器	甕	口縁部周辺は横ナデ。胴部内外面はナデ調整。ただし、胴部内面には、ナデ調整後に、口縁部近くに逆時計回りに刷毛目調整を集中して施す。	3518	3	
図64	1	A区	DT・DR-45区	SR-400	③a層	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデ。	3575	4	
	2	A区	DS-45区	SR-400	③a層	土師器	坏	全体の1/3ほどの破片。内外面ともに回転横ナデ。	3574	4	
	3	A区	DV-45区	SR-400	③b層	須恵器	高台付坏	内外面ともに回転横ナデ。	3562	4	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図64	4	A区	DS-45区	SR-400	③a層	須恵器	高台付埦	胴部外面は斜め方向のナデ。高台部・外底面・内面は回転横ナデ。	3556	4	
	5	A区	DU-45区	SR-400	③b層	須恵器	高台付盤	全面摩滅が進むが、部分的に回転横ナデの痕跡を観察できる。	3564	4	
	6	A区	DU-45区	SR-400	③b層	土師器	盤	推定口径20cm前後。胴部外面は部分的に器面が薄く剥離。内外面ともに横ナデ。	3508	1	
	7	A区	DU-45区	SR-400	③b層	須恵器	坏蓋	径はやや不確実。天井部外面は回転ヘラケズリと考えられるが、摩滅が著しく詳細は不明。内面は回転横ナデ。	3568	4	
	8	A区	DT-45区	SR-400	③b層	須恵器	坏蓋	天井部外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデであるが、その後に部分的に指頭押さえを施す。	3572	4	
	9	A区	DT・DR-45区	SR-400	③a層	土師器	鍋	口縁端面は摩滅。外面は荒れが著しく調整不明。内面には目が粗い刷毛目調整が施される。	3555	4	
	10	A区	DU-45区	SR-400	③b層	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデで仕上げられるが、頸部下半には平行条線のタタキ目が部分的に残る。胴部内面には同心円文の当て具痕が残る。	3573	4	
	11	A区	DU-45区	SR-400	③b層	須恵器	壺	内外面ともに回転横ナデ。	3563	4	
	12	A区	DT・DR-45区	SR-400	③a層	土師器	甕	内外面とも横ナデ調整。	3560	4	
	13	A区	DV-45区	SR-400	③b層	土師器	甕	内外面とも横ナデ調整。胴部外面部分には櫛歯に近い強い刷毛目が残る。器体の傾きはもう少し傾くか？	3559	4	
	14	A区	DU-45区	SR-400	③b層	土師器	甕	内外面とも横ナデ調整。器壁の芯部に厚く黒化層が残る。	3558	4	
	15	A区	DT-45区	SR-400	③b層下部	弥生土器	甕	「く」字形口縁。内外面とも横ナデ。	3557	4	
	16	A区	DU-45区	SR-400	③b層	須恵器	壺	胴部の外面には幅の広い平行条線のタタキ目、内面には同心円文の当て具痕が残る。頸部周辺は横ナデ。	3571	4	
	17	A区	DV-45区	SR-400	③b層	須恵器	壺	肩部破片。外面は平行条線のタタキ目の上にカキメが残る。内面には同心円文の当て具痕が残る。	3569	4	
	18	A区	DS-45区	SR-400	③a層	須恵器	壺	丸底。外面は、平行条線のタタキ目が交差。内面はナデ仕上げであるが、部分的に同心円文の当て具痕がわずかに残る。	3565	4	
	19	A区	DT-45区	SR-400	③a層	瓦	丸瓦	土師質。器面は摩滅が著しい。凹面側に布目痕跡がわずかに残る。	3577	4	
図65	1	A区	DU-45区	SR-400	③b層	弥生土器	壺	内外面ともに荒れが進むが、部分的に横ナデ調整痕が観察できる。	3526	3	
	2	A区	DT-45区	SR-400	③b層	弥生土器	壺	器面が荒れているために調整不明。頸部内外面は横ナデ。	3528	3	
	3	A区	DU-45区	SR-400	③b層	弥生土器	壺？	内面はナデ調整。	3524	3	
	4	A区	DT-45区	SR-400	③b層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3520	3	
	5	A区	DU-45区	SR-400	③b層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3553	3	
	6	A区	DT-45区	SR-400	③a層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3523	3	
	7	A区	DU-45区	SR-400	③b層	弥生土器	甕	小片のために、器体の傾きは不確実。調整は器面の荒れが進み不明。	3552	3	
	8	A区	DR-45区	SR-400	③a層	弥生土器	甕	外面は荒れ、調整は不明。内面は指頭によるナデ上げ。口縁部内外面は横ナデ。内面には横ナデによる細密条線が残る。	3504	1	
	9	A区	DS-45区	SR-400	③a層	弥生土器	甕	粘土接合面で剥離している。内外面ともに荒れが著しく、調整不明。	3549	3	
	10	A区	DS-45区	SR-400	③a層	弥生土器	甕	内外面ともに器面は摩滅。内底面の一部で指頭痕を観察できる。	3544	3	
	11	A区	DT-45区	SR-400	③b層下部	弥生土器	甕	内外面ともに器面は荒れが著しい。	3547	3	
	12	A区	DV-45区	SR-400	③b層	弥生土器	壺	内外面ともに摩滅が著しく、調整不明。	3554	3	
	13	A区	DV-45区	SR-400	③b層	弥生土器	壺	外面は荒れが著しく、調整は不明。内面は指頭でナデ上げ。	3546	3	
	14	A区	DV-45区	SR-400	③b層下部	弥生土器	壺	胴部は内外面ともに横ナデ。内底面は指頭で押さえ小さな平坦面ができている。外底面は指頭によるナデ。底部側面にも不明瞭ながら指頭痕が残る。	3534	3	
	15	A区	DU-45区	SR-400	③b層	弥生土器	壺	内外面ともに器面の荒れが著しく調整は不明。	3540	3	
	16	A区	DT-45区	SR-400	③a層	弥生土器	壺	内外面ともに器面の荒れが著しく調整は不明。	3539	3	
	17	A区	DS-45区	SR-400	③a層	弥生土器	壺	内外面ともに荒れが著しいが、内底面と外底面に指頭痕が部分的にみられる。	3535	3	
	18	A区	DR-45区	SR-400	③a層	弥生土器	壺	平底。内外面ともに荒れが著しいが、内面には強い指頭痕跡が残存。	3536	3	
	19	A区	DU-45区	SR-400	③b層	弥生土器	高坏	坏部内外面はミガキ。口縁部周辺は横ナデ。	3505	1	
図66	1	A区	DW-44区	SR-400	①a層上～中部	石器	磨製石包丁	両刃。刃こぼれが目立つ。重量32ｇ。	4425	27	図版38-⑥
	2	A区	DU-44区	SR-400	①a層中部	石器	石斧？	扁平な片岩の半裁資料。残存重量66.5ｇ。	4428	27	図版38-⑩
	3	A区	DT-45区	SR-400	③層	土製品	紡錘車	表面には指頭圧痕が全面に残る。	4417	27	図版37-⑨
図67	1	A区	DX -45区	SR-400	③層	鉄器	容器蓋	鍛造品か？　28.1g	4468	27	図版40-⑤(写真)、図版40-⑯(Ｘ線)
図69	1	A区	DW-42区	Ⅳ層直上		土師器	坏	全周の1/4弱の破片。内外面ともに荒れが進み、調整不明。	4005	10	
	2	A区	DT-42区	Ⅳ層上面	SS-17部分	土師器	埦	胴部下半～底部の1/5ほどの破片。外面は横ナデ。内面は荒れが進み調整不明。底部の器壁の一部には暗灰色の黒化層が残る。	4279	13	
	3	A区	DT-42区	Ⅳ層上面	SS-17部分	土師器	埦	高台部周辺の全周の1/5強の破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	4278	13	
	4	A区	DW-42区	Ⅳ層直上		土師器	埦	全周の破片。内外面ともに荒れが進み調整不明。	3968	10	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図69	5	A区	DZ-43区	Ⅳ層上面		瓦器	埦	全周の1/6ほどの高台部周辺の破片。高台部周辺は横ナデ。内面は丁寧なナデ仕上げ。内面はミガキ仕上げ。	4327	13	
	6	A区	DY・DZ-41～43区	Ⅳ層上面		弥生土器	鉢	口縁部周辺は横ナデ。胴部外面は縦方向の掻き上げるようなヘラ状工具によるナデ。内面には部分的に貝殻条痕が残るが、仕上げはナデ調整。	4329	13	
	7	A区	DX-41区	Ⅳ層直上		石器	石包丁	未成品。風化が進み、遺存状態は悪い。	4424	27	図版38-⑦
図72	1	A区	DY-41区	SB-412 (SP-550)	埋土中	弥生土器	甕	口縁部直下に突帯を貼り付け、爪を刺突して刻目を施す。内外面ともに器面の荒れのため調整は不明。	4569	23	
	2	A区	DZ-41区	SB-412 (SP-570)	柱痕内	弥生土器	甕	胴部外面に板ナデを施した後、屈曲部に強い横ナデを施す。内面を指オサエした後、上部に横方向の刷毛目調整を施し、最後にナデ仕上げ。	4576	24	
図74	1	A区	DR・DS-41区	SB-414 (SP-455)	埋土②・③層	弥生土器	甕	器面の荒れが著しいが、調整は内外面ともに横ナデと考えられる。その結果、口縁端部にはナデによる凹線状の沈線が見られる。	4528	17	
図77	1	A区	DT-41区	SB-415 (SP-461)		石器	敲打具	花崗岩の棒状の円礫を利用。	4446	27	
図78	1	A区	DS-41区	SB-415 (SP-460)	埋土	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデを施す。	4529	17	
	2	A区	DS-41区	SB-415 (SP-460)	埋土	土師器	埦	外面は器面の荒れのため調整不明だが、内面は横ナデを施す。	4530	17	
	3	A区	DS-41区	SB-415 (SP-460)	埋土	土師器	鍋	平底の底部である。外面は板状工具による横ナデ、内面は横方向の指ナデの後、円筒状の工具による横ナデ。	4531	17	
	4	A区	DS-41区	SB-415 (SP-464)	埋土①層	須恵器	坏	内外面ともに回転ナデを施す。小片のため傾きは不確実である。	4538	21	
	5	A区	DS-41区	SB-415 (SP-464)	根石東側下部埋土	弥生土器	鉢	胴部外面を縦方向のナデ、内面に器壁を削り取るような強いナデを施した後、口縁部を横ナデで仕上げる。	4537	21	
	6	A区	DS-41区	SB-415 (SP-464)	埋土③層	弥生土器	甕	わずかにくびれる上げ底の底部。外面に縦方向のミガキ痕を施す。内面・底部は指オサエによって調整。指頭圧痕が残る。	4539	21	
	7	A区	DS-41区	SB-415 (SP-464)	根石東側下部埋土	弥生土器	壺	平底の底部。内外面ともに横方向の指ナデを施す。一部に黒斑が生じる。	4540	21	
	8	A区	DT-41区	SB-415 (SP-465)	埋土①層	弥生土器	甕	受け口状の口縁部を呈する甕。外面は横ナデ、内面は横方向の指ナデを施す。	4541	21	
	9	A区	DT-41区	SB-415 (SP-461)	上側根石西側直下	弥生土器	甕	口縁端部を上方に摘み出すように横ナデを施す。その結果、端面がわずかに凹む。調整は内外面ともに横ナデである。	4532	20	
	10	A区	DT-41区	SB-415 (SP-461)	上側根石西側直下	弥生土器	高坏	口縁部外面に3条の浅い凹線文を巡らし、その下部に柾目の板材の小口による刺突文を施す。内面はミガキ、外面はナデによって調整する。	4533	20	
	11	A区	DT-41区	SB-415 (SP-461)	埋土②層	弥生土器	壺	外面調整は、胴下部に縦方向のミガキを上から下へ施した後、胴最大径から上部にかけて横方向のミガキを反時計回りに施す。内面調整は、胴部に横～斜方向のミガキを反時計回りに施し、頸部に横ナデを施す。頸部と胴部の境には絞り痕が残る。	4535	20	
	12	A区	DT-41区	SB-415 (SP-461)	埋土②層	弥生土器	壺	外面には胴部に縦方向のミガキを施した後、底部に斜方向のミガキを反時計回りに施し、その境に横方向のミガキを施す。内面は斜方向のミガキを時計回りに施し、内底面は指ナデが施される。	4534	20	
	13	A区	DT-41区	SB-415 (SP-461)	埋土②層	弥生土器	壺	外面には横～斜方向のミガキを時計回りに下から上へ施す。内面調整は横ナデである。	4536	20	
図80	1	A区	DT-41区	SB-416 (SP-591)	側縁埋土	弥生土器	壺	胴部外面に縦方向の刷毛目調整した後、頸部をナデている。胴部内面は横ナデを施す。	4578	24	
	2	A区	DT-41区	SB-416 (SP-591)	側縁埋土	弥生土器	鉢	口縁部は横ナデを施し、端部は面をもつ。	4579	24	
	3	A区	DT-41区	SB-416 (SP-591)	側縁埋土	弥生土器	高坏	外面は器面が剥落しており、調整は不明。内面は横ナデを施す。指頭圧痕が顕著に残る。	4580	24	
図82	1	A区	DT・DU-41区	SB-417 (SP-476)	埋土上半部	土師器	皿	内面は回転横ナデ、小片のため復元径は不確実。	4545	21	
	2	A区	DT・DU-41区	SB-417 (SP-476)	埋土上半部	弥生土器	甕	径は小片からの復元のためやや大きめであり、不確実。内面を指オサエした後、脚端面をナデて成形している。外面はナデ調整。	4546	21	
	3	A区	DT・DU-41区	SB-417 (SP-476)	埋土②層	弥生土器	壺	内外面ともに横方向のナデを施す。外面は丁寧に横ナデを施すが、内面には指頭圧痕や粘土のよれが残る。	4547	21	
	4	A区	DV-41・42区	SB-417 (SP-480)	埋土	土師器	皿	内外面ともに回転横ナデを施す。	4548	21	
	5	A区	DV-41	SB-417 (SP-571)	埋土②層	須恵器	壺	外面は回転ヘラケズリ、内面は回転指ナデである。一部にヘラ状工具が当たった痕跡や、指頭圧痕が見られる。	4575	24	
図85	1	A区	DX-42・43区	SB-419 (SP-526)	埋土	土師器	埦	外面は回転ナデを施す。	4558	22	
	2	A区	DX-42・43区	SB-419 (SP-526)	埋土	弥生土器	高坏	逆L字形の口縁をもつ高坏。	4559	22	
	3	A区	DX-42・43区	SB-419 (SP-526)	埋土②層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデを施し、内面には指頭圧痕が残る。	4560	22	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図85	4	A区	DX-42区	SB-419 (SP-568)	検出面	石器	砥石	欠損品で、残存重量980.5g。	4444	27	
図87	1	A区	DW-42区	SB-420 (SP-513)	埋土中	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデである。	4554	22	
	2	A区	DX-42区	SB-420 (SP-514)	埋土②・③層	弥生土器	高坏	内面は横方向のミガキを施すが、外面は剥落しており調整は不明。	4553	22	
	3	A区	DX-43区	SB-420 (SP-515)	埋土	弥生土器	壺	外面は横ナデの後、頸部に縦方向の刷毛目調整を施す。内面は横ナデを施す。	4555	22	
図89	1	A区	DX・DY-42・43区	SB-421 (SP-533)	埋土③層	弥生土器	甕	外面調整は、屈曲部を横ナデした後、胴部をヘラ状工具によってナデ、最後に板ナデを施す。内面は横ナデ。	4563	23	
	2	A区	DY-43区	SB-421 (SP-535)	埋土中	弥生土器	鉢	台付鉢の脚台部分と考えた。外面に横ナデを施す。内面に指頭圧痕が残る。	4564	23	
	3	A区	DY-42・43区	SB-421 (SP-536)	埋土②・③層	弥生土器	不明	把手破片と考えた。粘土塊を貼り付け、両側から指頭で摘み上げるように成形している。	4565	19	
図91	1	A区	DY-41・42区	SB-422 (SP-556)	埋土中	弥生土器	甕	外面は器面が薄く剥離しており、調整は不明である。内面はかなり強くナデ上げている。	4570	19	
図93	1	A区	DX・DY-42区	SB-423 (SP-547・568)	埋土③層	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向の刷毛目調整を施す。内面は器面の荒れのため調整は不明である。	4566	23	SP-568埋土①層出土の破片と接
図95	1	A区	DW・DV-41区	SB-424 (SP-487)	埋土⑤層	土師器	埦	径はやや不確実。内面は暗文風のミガキを施す。外面調整は器面の荒れのため不明である。	4549	21	
図97	1	A区	DV-41区	SK-401	西半部埋土下層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデを施す。	4469	16	
	2	A区	DV-41区	SK-401	西半部埋土下層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデを施す。内面はヘラ状工具による斜方向のナデつけ痕が残る。	4470	16	
	3	A区	DV-41区	SK-401	西半部埋土上層	弥生土器	鉢	内外面ともに横ナデ調整。	4471	16	
	4	A区	DV-41区	SK-401	西半部埋土上層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ調整。	4472	16	
	5	A区	DV-41区	SK-401	西半部埋土上層	弥生土器	甕	外面調整は荒れのため不明、内面はヘラ状工具をナデつける。小片のため復元径は不確実。	4473	16	
	6	A区	DV-41区	SK-401or408	最下層	弥生土器	壺または鉢	平底の底部。内外面ともに横ナデが施される。内底面には内面調整に伴う、細い棒状工具が当たった痕跡が見られる。	4474	16	
	7	A区	DV-41区	SK-401or408	最下層	弥生土器	壺	平底の底部。底部付近の焼成が甘く、底部外面は器面が剥落している。外面は縦方向のミガキ。内面は、縦方向のケズリの後、内底部近くにヘラもしくは板状工具による横ナデを施す。	4475	16	
	8	A区	DV-41区	SK-401or408	最下層	弥生土器	甕または鉢	口縁下に断面三角形の突帯を貼り付け、平織りの布を巻いた指頭を押捺して刻目を施す。刻目は右へ行くほど強く押捺されている。外面は横方向のミガキ、内面は横方向の丁寧なナデ。	4476	16	
	9	A区	DV-41区	SK-408	埋土⑧層	弥生土器	甕	小片のため傾きは不確実。口縁部が「く」字形に屈曲する甕と考えた。口縁部を摘むように横ナデし、その結果、端面がわずかに凹む。	4477	16	
図98	1	A区	DV-41区	SK-401	西半部埋土下層	石器	柱状片刃石斧	欠損品。残存重量33.6ｇ。	4421	27	図版38-⑧
	2	A区	DV-41区	SK-401	埋土	石器	敲石	扁平な花崗岩の円礫を利用。重量2,700ｇ。	4441	27	
図99	1	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	4478	16	
	2	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデを施す。	4479	16	
	3	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	壺	外面は縦方向の刷毛目調整の後、横ナデを施す。内面は横ナデを施すが、一部に絞り痕が残る。	4480	16	
	4	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	壺	外面はヘラ状工具を縦方向にナデつけている。内面は縦方向のナデを施す。	4481	16	
	5	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。	4482	16	
	6	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	外面に横ナデ、内面に横方向の刷毛目調整を施す。	4483	16	
	7	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。	4484	16	
	8	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向の刷毛目調整の後、ナデを施し、内面は横ナデによって調整する。	4485	16	
	9	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	外面は縦方向の板ナデの後、屈曲部に細密条線の残る横方向の板ナデを施す。内面は斜方向の荒い刷毛目調整の後、胴上半には横方向の板ナデを施す。	4486	16	
	10	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。内面には指頭圧痕が残る。	4487	16	
	11	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土①層	弥生土器	甕	内外面ともに胴部に縦方向の刷毛目調整を施した後、屈曲部から口縁部に横ナデを施す。	4488	16	
	12	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	外面は縦方向の刷毛目の後、横ナデを施す。内面は縦方向の板ナデの後、斜方向の刷毛目を施し、最後に屈曲部を横ナデする。	4489	16	
	13	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	甕	外面調整は、胴部に縦方向の刷毛目を施した後、屈曲部に横ナデ、胴下部に縦方向のミガキを施す。内面は器面の荒れが著しいが、縦方向の刷毛目がわずかに残る。	4490	16	
	14	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土①層	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向の刷毛目の後、屈曲部に横ナデを施す。内面は細密条線の残る縦方向の板ナデの後、部分的に強い縦方向の刷毛目調整を施す。	4491	16	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図99	15	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	甕	外面調整は器面の荒れのため不明だが、屈曲部にわずかに横ナデが見られる。内面調整は縦方向の刷毛目の後、上部に横ナデを施す。	4492	16	
	16	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	甕	内外面で原体の異なる縦方向の刷毛目の後、屈曲部を横ナデする。	4493	16	
	17	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	内外面ともに胴部は縦方向の刷毛目をナデ消す。屈曲部は横ナデである。	4494	16	
	18	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土②層	弥生土器	甕	外面に縦方向の板ナデ、内面に縦方向の刷毛目調整を施す。	4495	16	
	19	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	調整は器面の荒れのため不明である。	4496	16	
	20	A区	DX-41区	SK-402	土壙底面	弥生土器	甕	外面調整は横ナデである。内面は上部を横ナデした後、下部にヘラ状工具による横ナデを施す。	4497	16	
	21	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	甕または鉢	内外面ともに横ナデを施す。	4498	16	
	22	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土②層	弥生土器	甕または鉢	内外面ともに胴部は縦方向の刷毛目調整を施す。口縁部内面は横ナデを施す。	4499	16	
	23	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	高坏	外面調整は横ナデの後、縦方向のミガキを施す。内面調整は横ナデである。	4500	16	
	24	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	高坏	外面調整は荒れのため不明だが、内面は横ナデを施す。	4501	16	
	25	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	高坏	内外面ともに横ナデを施す。	4502	16	
	26	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土②層	弥生土器	高坏	外面調整は荒れのため不明である。内面はナデが施され、わずかに絞り痕が残る。小片のため傾き、上下は不確実。	4503	16	
	27	A区	DX-41区	SK-402	土壙底面	弥生土器	鉢	器面は荒れているがわずかに横ナデが見られる。小片のため器体の傾きは不確実である。	4504	16	
	28	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕または鉢	口縁部は内外面ともに横方向の指ナデを施す。端面は横ナデによって面取り。屈曲部内面には指頭圧痕が残る。	4505	16	
図100	1	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	壺	外面調整は荒れのため不明。内面は、幅広縦方向の刷毛目調整の後、底面を人差し指～薬指を使って横方向に押さえつけるようなナデを施す。内底面の一部に、内面調整に伴う棒状工具が器面を削るように当たった痕跡が残る。	4506	16	
	2	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	壺	外面は板状工具で押さえた後、縦方向のミガキを施す。内面は荒れのため調整不明。	4507	16	
	3	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土①層	弥生土器	壺	外面は斜方向のミガキを施し、底部付近に指頭圧痕が残る。内面調整は縦方向のヘラケズリ。	4508	16	
	4	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土①層	弥生土器	甕	外面に縦方向のミガキ、内面に縦方向の刷毛目調整を施す。	4509	16	
	5	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	甕	外面に横方向の指ナデを施し、内面には指頭圧痕が残る。	4510	16	
	6	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	弥生土器	甕	外面に縦方向のミガキを施した後、下部を横ナデする。内面は横ナデを施し、内底面には指頭圧痕が残る。	4511	16	
	7	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土②層	弥生土器	甕	外面は縦方向のミガキの後、横ナデを施し、底部縁辺に棒状工具が当たった痕跡が見られる。内面は横方向の刷毛目調整の後、板ナデを施す。	4512	16	
	8	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	弥生土器	甕	平底の底部。外面は縦方向のミガキの後、下部に横ナデを施し、内面は縦方向のナデである。	4513	16	
	9	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	甕	平底の底部。外面は裾部を横ナデした後、縦方向のミガキを施す。内面は横ナデである。	4514	16	
	10	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	甕	外面は裾部を横ナデした後、断面が弧状の工具による縦方向のナデを施す。内面は草本類の茎束によって擦過する。内底面には指オサエを施す。	4515	16	
	11	A区	DX-41区	SK-402	埋土②層	弥生土器	甕	内底面は剥落する。内面に親指、外面に人差し指から薬指を当てて、摘むように押さえた後、外面を横方向にナデで仕上げる。外底面は横ナデ。	4516	16	
図101	1	A区	DX-41区	SK-402	東半部②層	石器	磨石	扁平な砂岩円礫の側縁に研磨痕が残る。重量６ｇ。	4429	27	図版39-⑤
	2	A区	DX-41区	SK-402	西半分埋土	土製品	紡錘車	表面は丁寧なナデ仕上げ。	4416	27	図版37-⑧
	3	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中部	石器	砥石	砂岩の円礫の一面を砥面として利用。欠損し、残存重量は391.2ｇ。	4443	27	
図102	1	A区	DX-41区	SK-402	西半部埋土中	土師器	埦	内外面ともに横ナデを施す。胎土は精良である。	4517	16	
	2	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土②層	土師器	埦	内外面ともに横ナデを施す。	4518	16	
	3	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土①層	土師器	埦	口縁部は横ナデ、外面は荒れているが指頭圧痕が残り、内面は縦方向のミガキを施す。	4519	16	
	4	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	土師器	皿	内外面ともに横ナデを施す。	4520	16	
	5	A区	DX-41区	SK-402	東半部埋土中	土師器	埦	外面は荒れが進むがナデ仕上げか？外面は横ナデを施す。	4521	16	
図103	1	A区	DZ-42区	SK-404	埋土下半部	弥生土器	壺	調整は器面の荒れのため不明であるが、わずかに横ナデが観察できる。小片のため傾きは不確実である。	4522	17	
	2	A区	DV-42区	SK-407	埋土	土師器	埦	調整は判然としないが、内外面ともに横ナデと考えられる。	4524	16	
	3	A区	DV-42区	SK-407	埋土	土師器	皿	内外面ともに横ナデを施す。底部切り離し技法は不明。	4525	16	
	4	A区	DV-42区	SK-407	埋土	土師器	埦	外面は部分的に指頭圧痕が残る。内面はミガキが部分的に残る。	4526	16	
	5	A区	DS-41区	SK-406	埋土	弥生土器	壺	外面調整は横方向のミガキで、底部付近を指で押さえる。内面調整は器面の荒れのため不明だが、何らかの工具が当たった痕跡が残る。内底面には指頭圧痕が残る。	4527	18	

挿図	遺物№	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図103	6	A区	DW-42・43区	SK-425	上面	土師器	柱状高台土器	外面は回転ナデを施す。	4556	18	
	7	A区	DW-42・43区	SK-425	埋土	土師器	鍋	一部に煤が付着する。	4557	18	
図107	1	A区	DT-41区	SP-471	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を跳ね上げるように横ナデを施し、端面に２条の浅い凹線文を施す。内外面ともに胴部を縦方向の刷毛目で調整した後、屈曲部に横ナデを施す。	4542	21	
	2	A区	DT-41区	SP-473	埋土③層	弥生土器	甕	小片のため傾きは不確実。口縁部が「く」字形に屈曲する甕と考えた。口縁部に横ナデを施し、その結果、口縁端部はわずかに凹む。	4543	21	
	3	A区	DT-41区	SP-473	埋土①層	弥生土器	甕	口縁端部を上方に摘み出すように横ナデする。その結果、端面は凹線状の凹みが見られる。口縁部は内外面ともに横ナデを施す。	4544	21	
	4	A区	DX-43区	SP-527	埋土中	弥生土器	壺	平底の底部。外面は横ナデの後、斜方向のミガキを施す。内面は刷毛目調整である。	4561	22	
	5	A区	DX-41区	SP-508	埋土下半部	土師器	皿	工具を用いた回転ナデによって底部を成形した後、外面を横ナデしている。内面は回転ナデ。	4550	22	
	6	A区	DX-41区	SP-508	埋土下半部	土師器	埦	外面調整は横ナデを施し、内面調整は暗文風のミガキがわずかに見える。底部は回転糸切り離しの後、丁寧なナデを施す。	4551	22	
	7	A区	DX-41区	SP-508	埋土下半部	土師器	鍋	外面はタタキ調整。内面は、左上がりの斜方向にヘラ状工具を素早く動かして調整した後、右上がりに調整し、部分的に細密条線が見られる。最後に、上半を丁寧に横ナデする。	4552	22	
	8	A区	DX-43区	SP-529	埋土中	弥生土器	甕	口縁端部を摘み出すように横ナデを施す。その結果、端面がわずかに凹む。外面はタタキの後、縦方向の刷毛目調整を施す。内面は口縁部に横ナデ、胴部に強い横方向の板ナデを施す。	4562	23	
	9	A区	DY-43区	SP-539	埋土②層	弥生土器	甕	屈曲部内面に段状の沈線が巡る。胴部外面に縦方向の刷毛目、屈曲部に横ナデを施す。内面は横ナデを施す。	4567	23	
	10	A区	DY-43区	SP-539	埋土①層	弥生土器	甕	胴部外面を横・縦方向のヘラミガキによって調整し、屈曲部に強い横ナデを施す。内面はヘラ状工具による横ナデの後、粘土が乾く前に針葉樹材の工具で掻き上げるため、細密条線が残る。	4568	23	
	11	A区	DS-41区	SP-566	埋土	弥生土器	壺	口縁端部を横ナデによって上下にわずかに拡張し、端面に浅い２条の凹線文を施す。頸部には断面三角形の突帯を貼り付け、左、右の順に２個１単位の刻目を四方に施す。刻目は、刷毛目工具をナデつけた後、下半を指頭で左下方向にナデて施文する。調整は内外面ともに横ナデを施し、指頭圧痕が残る。	4571	23	
	12	A区	DS-41区	SP-566	埋土	弥生土器	壺	口縁端面に浅い２条の凹線文を施す。外面調整は胴部に縦方向の板ナデを施した後、口縁部を横ナデしている。内面は口縁部に横ナデを施し、胴部に横方向のケズリを施す。破断面には黒化層が厚く残り、口縁部の２～３ヶ所に焼成時破裂痕が見られる。	4572	23	
	13	A区	DS-42区	SP-569	検出時	弥生土器	壺	平底の底部。内外面ともに横ナデを施す。特に内面は指先もしくは棒状の工具による強い横ナデである。外底面に黒斑が生じる。	4573	20	
	14	A区	DS-42区	SP-569	検出時	弥生土器	壺	平底の底部。胴部外面に縦方向の細密条線の残る板ナデの後、ヘラナデを施し、最後に底部付近を横ナデ仕上げ。内面は器面の荒れが著しいが指頭圧痕が残り、３本の指を揃えてナデ上げていることがわかる。外底面に籾圧痕が残る。	4574	20	
	15	A区	DS-42	SP-589	埋土下部	須恵器	不明	外面は平行タタキの後、カキメを施す。内面は同心円文の当て具痕が残る。	4577	24	
	16	A区	DT-41区	SP-471	埋土	石器	敲石	扁平な花崗岩の円礫を利用。上面と側縁の一部に敲打痕が残る。重量1,556ｇ。	4439	27	
	17	A区	DS-41区	SP-466	検出面	石器	凹石	やや扁平な砂岩の円礫を利用。側縁も敲打痕が残る。重量105ｇ。	4440	27	
図111	1	B区	DG-39区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	弥生土器	壺	表面は内外面ともに荒れるが、内面には明瞭な指頭痕が残る。	3349	28	
	2	B区	DG-38区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	短頸壺	端部は丸くおさめる。内外面ともに回転横ナデ。	3299	28	
	3	B区	DH-38区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	短頸壺	歪みがあり反転復元不能。内外面ともに回転横ナデ。	3301	28	
	4	B区	DH-38区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	短頸壺	外面はカキメ。内面は回転横ナデ。肩部と胴部との境付近は色調が異なり、焼成時に蓋がのっていたと推定される。	3294	28	
	5	B区	DH-38・39区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	壺	外面は回転横ナデ。胴部中程のみ板状工具を用いた回転ナデを施す。内面回転横ナデ。	3305	28	
	6	B区	DG-39区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	壺または甕	外面格子タタキの後、カキメ調整。内面同心円文当て具痕が残る。	3293	28	
	7	B区	DH-38区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	壺または甕	外面格子タタキの後、カキメ調整。内面回転横ナデ。	3296	28	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図111	8	B区	DH-39区	SC-605・606上部	DG・DH-38区Ⅲ層	須恵器	壺または甕	外面格子タタキの後、板状工具による刷毛目調整。内面には同心円文当て具痕が残る。	3297	28	
図112	1	B区	DH-38区	SC-606	埋土下部	弥生土器	壺	外面はナデの後に重弧文を施す。内面はナデ及び刷毛目調整が施される。	3028	28	図版45-⑨
	2	B区	DH-39区	SC-606	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデ調整。	3026	28	
	3	B区	DH-38区	SC-606	埋土下部	弥生土器	甕	平底の底部片。ナデ調整。	3089	28	
	4	B区	DH-39区	SC-606	埋土	土師器	甕	頸部から肩部片。「く」字形の口縁がつくものと考える。二次的に火を受けて器表面は荒れ調整不明。ただし、内面はヘラケズリか？	3027	28	
図115	1	B区	DI-32区	SC-670	埋土	縄文土器	深鉢	肩部片。外面は条痕調整。内面はナデ。	3116	28	
	2	B区	DI-32区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	口縁部から頸部片。外面は横ナデ。内面の上半部は横ナデ、下半部は刷毛目調整。	3115	28	図版41-①
	3	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	外面は横ナデ。内面は刷毛目調整。	3110	28	図版41-②
	4	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3123	28	
	5	B区	DI-32区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3113	28	図版41-③
	6	B区	DH-31区	SC-670	炭ブロック周辺	弥生土器	壺	外面は荒れにより調整不明。内面は刷毛目調整。	3122	28	
	7	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	外面は横ナデ、内面はナデ。	3142	28	
	8	B区	DI-31区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	頸部付け根は、内外面ともに強い横ナデ。外面は縦方向に刷毛目調整。内面はナデ。	3132	28	
	9	B区	DI-32区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	外面は、縦方向に刷毛目調整。頸部近くは横ナデを施す。内面は板状工具によるナデを施す。	3114	28	
	10	B区	DH-31区西半	SC-670	埋土	弥生土器	壺	内面には、指頭痕が残る。	3120	28	
	11	B区	DI-32区	SC-670	埋土（SP-673周辺）	弥生土器	壺	外面は刷毛目調整。内面には指頭痕が残る。	3119	28	
	12	B区	DI-31区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	外面は刷毛目調整。内面はナデ。	3130	28	
	13	B区	DI-31区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	外面は横ナデ。内面は摩滅により調整不明。	3129	28	
	14	B区	DI-31・32区	SC-670	床面直上	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3124	28	
	15	B区	DH-32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	調整時に端部を上下に摘みあげる。内外面ともに横ナデ。	3139	28	
	16	B区	DI-32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	端部はわずかに上方へ摘みあげる。外面は横ナデ。内面はナデ。	3112	28	
	17	B区	DI-32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	端部はわずかに上下に摘みあげる。内外面ともに横ナデ。	3117	28	
	18	B区	DH-31区西半	SC-670	埋土	弥生土器	甕	口縁端部を上下に拡張する。表面は荒れ調整不明。	3121	28	
	19	B区	DH-32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	外面は、頸部付け根に強い横ナデを施し、以下は刷毛目調整。内面は刷毛目調整。	3138	28	
	20	B区	DH-32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに表面は荒れ、調整不明。	3140	28	
	21	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	底部表面には、板状工具の端部の押圧痕が残る。底部下端外面には、擦過痕が見られる。内面は、摩滅し調整不明。	3109	28	
	22	B区	DI-32区	SC-670	埋土（SP-673周辺）	弥生土器	壺	外面はナデ。内面上部はナデ、下部はケズリ。	3118	28	
	23	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	外表面は摩滅し、調整不明。内面はケズリ。	3134	28	
	24	B区	DH-31区	SC-670	東半部埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向にヘラミガキ。内面上部にはケズリ。底面近くに指頭痕が残る。	3141	28	
	25	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	外面はナデ。底面に爪の痕を残す。内面は幅約1㎝の板状工具によるケズリを施す。	3126	28	
	26	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	Ⅲ層部分	弥生土器	甕	外面は、脚端部近くまで刷毛目調整を施した後、胴部下部に縦方向にヘラミガキ。内面には指頭痕が残る。底部外面はナデ。	3111	28	
	27	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	ミニチュア甕	脚端部を欠損。外面は摩滅。胴部下半に指頭痕が残る。内面はケズリ。	3127	28	
	28	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土＋SP-659埋土	弥生土器	甕	外面は刷毛目調整。内面は時計回りにケズリを施す。内面は器表の荒れ、砂粒が目立つ。	3145	28	SP-659出土遺物と接合。図版41-⑨。
	29	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	高坏？	底部外面に横方向のミガキ。内面はナデ。	3143	28	図版41-④
	30	B区	DI-31区	SC-670	埋土	弥生土器	高坏	沈線が1条見られることから、上部には数条施されていたと想定される。外面はナデ。内面はミガキ。	3131	28	
	31	B区	DH-32区	SC-670	埋土	弥生土器	高坏	外面は強い横ナデ。内面はナデおよび横ナデ。	3137	28	
	32	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	壺	外面刷毛目調整の後、竹管文が施文。	3125	28	
	33	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	口縁部・頸部内外面は横ナデ。胴部は外面ナデ、内面ケズリ。内面には指頭痕が残る。	3135	28	図版41-⑦
	34	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	弥生土器	鉢	外面には板状工具の押圧痕が残る。内面はミガキを施す。底部外面はナデおよび不定方向にケズリを施す。指頭痕が残る。	3144	28	図版41-⑧
	35	B区	DI-31区	SC-670	埋土	弥生土器	甕	外面には斜めおよび縦方向に刷毛目調整を施す。内面はケズリを施す。	3133	28	
図116	1	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	石器	叩き石	花崗岩の円礫を利用。端部に敲打痕が見られる。残存長12.3㎝、幅8.6㎝、厚さ7.3㎝。重量1064.4ｇ。	3430	39	図版51-④
	2	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	Ⅲ層部分	石器	磨石	花崗岩の円礫を利用。端部に擦過痕が見られる。全長11.1㎝、幅5.4㎝、厚さ4.6㎝。重量500.8ｇ。	3448	39	図版51-②
	3	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	石器	砥石	全面が使用面である。堆積岩製。残存長6.2㎝、幅3.4㎝、厚さ1.5㎝。残存重量53.7ｇ。	3419	39	図版49-①

挿図	遺物No	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図116	4	B区	DH・DI-31・32区	SC-670	埋土	石器	有溝石錘	砂岩製。表面には敲打痕が残る。残存長7.5cm、幅5.1cm、厚さ3.7cm。重量183.3ｇ。	3441	39	図版49-③
図117	1	B区	DH-32-5区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3347	29	
	2	B区	DH-31-24区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	壺	頸部の付け根には突帯を施す。外面は横ナデ。	3333	29	
	3	B区	DI-32-1区	SC-670上	Ⅲ層下部	弥生土器	壺	外面に断面三角形の突帯を２条施す。	3380	29	
	4	B区	DH-31-20区	SC-670上	Ⅲ層下部	弥生土器	壺	内外面ともに表面は荒れて調整不明。	3327	29	
	5	B区	DI-32-1区	SC-670上	Ⅲ層下部	弥生土器	壺	頸部と肩部の境には強い横ナデを施し、凹線状を呈する。	3326	29	
	6	B区	DH-31-24区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	壺	外表面は荒れる。内面は縦方向にケズリ・刷毛目調整。上部に指頭痕が残る。	3338	29	
	7	B区	DH-31-24区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	壺	平底。内外面ともに表面の一部が剥落する。	3385	29	
	8	B区		SC-670上	Ⅲ層炭ブロック	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3318	29	
	9	B区	DI-31-16・21区	SC-670上	DI-32-1Ⅲ層上部＋DH-32Ⅲ層上部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3315	29	
	10	B区	DH-31-24区	SC-670上	Ⅲ層	弥生土器	甕	内外面ともに刷毛目調整。内面には指頭痕が残る。	3369	29	
	11	B区	DI-31-24区	SC-670上	Ⅲ層下部	弥生土器	壺または甕	内外面ともにナデを施す。	3334	29	
	12	B区	DI-32- 1区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	甕	外面は横ナデ。内面には指頭痕が残る。	3355	29	
	13	B区	DI-32- 1区	SC-670上	Ⅲ層	弥生土器	甕	外面はナデ。内面には板状工具の押し当て痕が残る。	3405	29	
	14	B区	DH・DI-31・32区＋DH-32-14区	SC-670	Ⅲ層	弥生土器	高坏	口縁端部は面取り調整を施す。外面は横ナデ、内面は荒れにより、調整不明。	3307	29	DH-32-14区 Ⅲ 層と接合
	15	B区	DH-31-24区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	高坏	外面には幅狭の凹線文を４条巡らせる。内面は横ナデ調整。	3356	29	図版41-⑤
	16	B区	DH-32-5区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	高坏	内面には板状工具の押し当て痕が残る。	3390	29	図版41-⑥
	17	B区	DH-31-24区	SC-670上	Ⅲ層上部	弥生土器	甕または鉢	外面は横ナデ。内面はナデ。	3339	29	
	18	B区	DI-32-1区	SC-670上	Ⅲ層下部	弥生土器	壺	頸部は横ナデ、胴部は縦方向に刷毛目調整を施す。内面は摩滅。	3383	29	
図120	1	B区	DI-31区	SC-729	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3235	29	
	2	B区	DI-31区	SC-729	埋土	弥生土器	高坏	外面はナデ調整。内面にはしぼり痕が残る。	3237	29	図版41-⑩
	3	B区	DI-31区	SC-729	埋土	土師器	皿	内外面ともに荒れにより、調整不明。	3236	29	
	4	B区	DI-31区	SC-738	埋土	弥生土器	高坏	外面上半部には「ノ」字状文が施される。刷毛目調整を施した後、横ナデを施す。	3100	29	
	5	B区	DI-31区	SC-730	貼り床部分	弥生土器	壺	内外面ともにナデ。	3177	29	
	6	B区	DI-31区	SC-730	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデ。	3176	29	
図123	1	B区	DH-31区	SC-750SP-714	②層	弥生土器	鉢	外面は刷毛目調整。端部近くは横ナデ。内面は斜めおよび横方向に刷毛目調整。	3171	29	
	2	B区	DH-31区	SC-750SP-714	埋土	弥生土器	甕	突帯には布の上から指頭により刻み目を施す。外面はナデ。内面は横ナデ。	3413	29	
	3	B区	DH-31区	SC-750SP-714	①層	弥生土器	甕または鉢	外面には指頭痕と板状工具による押圧痕が残る。内面には指頭痕が残る。底部外面はナデおよびケズリを施す。	3170	29	
	4	B区	DI-31区	SC-750SP-720	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。	3169	29	
	5	B区	DI-31区	SC-750SP-720	②層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3164	29	
	6	B区	DI-31区	SC-750SP-720	埋土	弥生土器	甕	端部は面取り調整。内外面ともにナデ。	3168	29	
	7	B区	DI-31区	SC-750SP-720	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3167	29	
	8	B区	DI-31区	SC-750SP-720	②層	弥生土器	壺	平底。内外面ともに荒れにより、調整不明。	3165	29	
	9	B区	DI-31区	SC-750SP-720	②層	弥生土器	甕	上げ底。脚端部は丸くおさめ、内外面ともにナデ。	3166	29	
図124	1	B区	DH-31区	SC-750SP-714	②層	石器	叩き石	砂岩礫を使用。下端部には敲打痕が多数見られる。残存長12.8cm、幅８cm、厚さ７cm。重量1.0057ｇ。	3435	39	図版50-③
図125	1	B区	DI-31区	SC-750SP-720	埋土	石器	叩き石	中央部が使用によりすり減る。端部は敲打痕が見られる。砂岩製。全長6.5cm、幅4.7cm、厚さ４cm。重量149.4ｇ。	3437	39	図版49-⑤
	2	B区	DI-31区	SC-750SP-720	埋土	石器	叩き石	端部以外は欠損する。端部は敲打痕が多数見られる。砂岩製。残存長3.8cm、幅7.1cm、厚さ5.1cm、残存重量136.4ｇ	3438	39	図版49-⑩
図127	1	B区	DJ-31区	SC-751SP-734	埋土	弥生土器	甕	胴部外面は横ナデおよび縦方向にヘラミガキが施される。内面は、口縁部に横ナデ、胴部にケズリが施され、指頭痕が残る。	3172	29	図版41-⑪
	2	B区	DJ-31区	SC-751SP-734	埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向にヘラミガキ。内面はケズリが施される。	3269	29	
	3	B区	DI-31区	SC-751SP-680	②層	弥生土器	甕	内外面ともに荒れにより、調整不明。	3211	29	
	4	B区	DI-31区	SC-751SP-680	②層	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3210	29	
	5	B区	DI-31区	SC-751SP-680	②層	弥生土器	甕	表面は荒れ、調整不明。	3316	29	
	6	B区	DI-31区	SC-751SP-680	埋土（下部遺構遺物混じり）	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3212	29	
	7	B区	DI-31区	SC-751SP-680	②層	弥生土器	鉢か	内外面ともに横ナデ。	3209	29	
	8	B区	DI-31区	SC-751SP-680	埋土（下部遺構遺物混じり）	弥生土器	壺	外面はナデ。内面は上下方向の擦過痕が残る。	3214	29	
	9	B区	DI-31区	SC-751SP-680	埋土（下部遺構遺物混じり）	弥生土器	壺	内外面ともにナデ。	3213	29	
図128	1	B区	DI-31区	SC-752SP-676	埋土	弥生土器	壺	端面に施される凹線文は浅く不明瞭。	3090	29	
	2	B区	DI-31区	SC-752SP-676	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにマンガン等の付着や摩滅により調整不明。	3091	29	
	3	B区	DI-31区	SC-752SP-703	埋土（下部遺構遺物混じり）	弥生土器	甕	全体的に表面は荒れる。外面は横ナデ、内面はナデ。	3158	29	図版41-⑫
図130	1	B区	DI-32区	SP-671	Ⅲ層部分	弥生土器	甕	口縁端部は面取り調整。口縁部は内外面ともに横ナデ。肩部は外面刷毛目調整。内面は板状工具のオサエ痕が残る。	3094	29	図版45-⑦

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図130	2	B区	DI-31区	SP-681	②層	弥生土器	壺	上下に拡張した端面に波板状の凹線文を３条施す。	3206	29	
	3	B区	DI-31区	SP-681	②層	弥生土器	甕または鉢	上下にわずかに拡張する。内外面ともに横ナデ。	3205	29	
	4	B区	DI-31区	SP-681	東半部(下部遺構遺物混じり)	弥生土器	甕	内面は荒れにより調整不明。	3207	29	
	5	B区	DI-31区	SP-681	東半部(下部遺構遺物混じり)	弥生土器	甕	外面は横ナデおよびナデ。内面は刷毛目調整およびナデを施す。	3208	29	
	6	B区	DH･DI-31区	SP-687	②層	弥生土器	壺	器壁は厚い。口縁端部は面取り調整。全体に摩滅し調整不明。	3102	29	
	7	B区	DH･DI-31区	SP-687	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	大型壺。外面はナデ。内面は表面が荒れ調整不明。	3106	29	
	8	B区	DH･DI-31区	SP-687	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	外面はナデ。内面には指頭痕が残る。	3107	29	
	9	B区	DH･DI-31区	SP-687	掘り形内	弥生土器	甕	口縁部は胴部上半から大きく屈曲し、端部は上方に拡張する。口縁部は内外面ともに横ナデ。胴部は内外面ともに刷毛目調整だが、内面上部は横方向にケズリを施す。	3105	29	図版45-⑧
	10	B区	DH･DI-31区	SP-687	②層	弥生土器	壺	平底を呈するが、わずかに凹む。底部外面はヘラ状工具によるケズリが施される。内面はナデ。	3101	29	
	11	B区	DH･DI-31区	SP-687	掘り形内	弥生土器	甕	脚裾部外面と内面には板状工具の押し当て痕が残る。胴部の下半外面は縦方向にヘラミガキが施され、指頭痕が残る。	3104	29	
	12	B区	DI-31区	SP-709	南半部	弥生土器	甕	脚端部外面は土器焼成もしくは二次焼成で表面が剥離。外面は横ナデ。内面はナデが施され、指頭痕が残る。	3157	29	
	13	B区	DH･DI-31区	SP-687	②層	土製品		不明土製品。不定形を呈し、表面には草木類の茎の付着痕が見られる。重量6.1ｇ。	3103	29	図版45-⑫
	14	B区	DI-31区	SP-688	②③④層	弥生土器	鉢	内傾する頸部に外反気味の口縁部がとりつく。端部はわずかに上方へ摘み上げる。内外面ともに横ナデ。	3150	29	
	15	B区	DI-31区	SP-688	②③④層	弥生土器	甕	口縁部片。内外面ともに荒れで調整不明。	3151	29	
	16	B区	DI-31区	SP-688	①層	弥生土器	鉢	端部は丸くおさめる。外面はナデ。内面は荒れにより、調整不明。	3154	29	
	17	B区	DI-31区	SP-688	②③④層	弥生土器	高坏	内面は横ナデ。	3153	29	図版45-⑪
	18	B区	DI-31区	SP-688	埋土②層	弥生土器	甕	端部は丸くおさめる。内外面ともに横ナデ。	3155	29	
	19	B区	DI-31区	SP-688	②③④層	弥生土器	高坏	内外面ともに荒れにより、調整不明。	3152	29	
	20	B区	DI-31区	SP-688	北半部④層	弥生土器	高坏	外面はナデ。内面は横方向に刷毛目調整。	3149	29	
図131		B区	DI-31区	SP-688	②③④層	石器	剥片	赤色頁岩製。全長3.6cm、幅1.4cm、最大厚0.4cm。重量2.3ｇ。	3418	39	図版48-②
図133	1	B区	DH-32区	SB-749SP-660	埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向に刷毛目調整。内面は剥落しており、調整不明。	3040	30	
	2	B区	DH-32区	SB-749SP-660	埋土	弥生土器	壺	外面はナデの後に、刷毛目調整。内面はナデ。	3039	30	
	3	B区	DI-32区	SB-749SP-673	②層上部	弥生土器	甕	口縁端部は上方に摘み上げる。内外面にとも横ナデ。	3095	30	
	4	B区	DI-32区	SB-749SP-673	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3097	30	
	5	B区	DI-32区	SB-749SP-673	②層上部	弥生土器	甕	外面は横ナデ。内面は摩滅により、調整不明。	3096	30	
図134	1	B区	DH-32区	SB-749SP-660	埋土	石器	礎板	目立った加工痕は見られない。砂岩。重量837.9ｇ。	3446	39	図版48-⑨
図136	1	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	弥生土器	壺	複合口縁壺。全体に表面の荒れが著しい。頸部内面には指頭痕がわずかに残る。	3283	30	図版46-⑮
	2	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	弥生土器	壺	全体に表面は荒れ調整が不明だが、外面の一部には刷毛目調整が見られる。	3282	30	
	3	B区	DH-32区西側	SD-601		弥生土器	壺	外面はナデ。内面はケズリ。	3255	30	旧 SD-650
	4	B区	DH-32区西側	SD-601		弥生土器	壺	外面は摩滅する。内面はケズリ。底部全面に黒斑あり。	3256	30	旧 SD-650。図版46-⑯。
	5	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	弥生土器	鉢	胴部外面は刷毛目調整が施される。脚部外面および内面には指頭痕が残る。	3281	30	図版46-⑱
	6	B区	DH-32区西側	SD-601		弥生土器	高坏	脚端部外面は横ナデ。内面はケズリ。	3254	30	旧 SD-650。図版46-⑲。
	7	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	陶器	人形	人形。外面はナデ。内面には型への押し当て痕が見られる。胴部は中空。残存長7.6cm。	3312	30	図版46-⑰
図137	1	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	叩き石	砂岩の棒状礫を使用。上部を欠損。端部に敲打痕が見られる。残存長12.5cm、幅7.1cm、厚さ4.2cm。残存重量557.5ｇ。	3445	39	SD-650。図版50-①
	2	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	砥石	上部、下部を欠損する。堆積岩製。残存長４cm、幅6.6cm、厚さ6.3cm。残存重量205.1ｇ。	3433	39	図版49-④
	3	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	剥片	緑色片岩。残存長6.3cm、幅4.1cm、厚さ0.9cm。残存重量39.5ｇ。	3422	39	図版48-⑧
	4	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	砥石	全面を使用面とする。砂岩塊を利用。残存長5.6cm、幅3.3cm、厚さ２cm。残存重量55.5ｇ。	3424	39	図版49-②
	5	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	砥石	下端部が使用面として用いられる。堆積岩製。残存長5.2cm、幅6.3cm、厚さ2.3cm。残存重量112.1ｇ。	3428	39	図版48-⑫
	6	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	砥石	残存長４cm、幅4.9cm、厚さ1.2cmの扁平な円盤状を呈する。下半部を欠損。砂岩製。残存重量10.5ｇ。	3423	39	図版48-⑩
	7	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	砥石	堆積岩製。残存長4.4cm、最大幅3.2cm、厚さ0.9cm。残存重量5.6ｇ。	3429	39	図版48-⑪
	8	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	叩き石	砂岩の礫使用。一部欠損。側面には敲打痕が見られる。砂岩製。全長8.9cm、幅6.4cm、厚さ4.5cm。残存重量320.3ｇ。	3439	39	SD-650。図版50-②。
	9	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	銅銭		寛永通宝。直径2.3cm。重量1.8ｇ。	3415	39	図版53-④

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図138	1	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	石鏃	サヌカイト製。凹基式。全長2.1cm、幅1.9cm、最大厚さ0.3cm。重量1.9ｇ。	3417	39	図版48-①
	2	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	剥片	赤色頁岩。残存長3.1cm、残存幅3.1cm、厚さ0.3cm。残存重量４.3ｇ。	3420	39	図版48-⑤
	3	B区	DH-32･33区	SD-601	埋土	石器	剥片	サヌカイトか。残存長3.3cm、幅３cm、厚さ0.4cm。残存重量5.5ｇ。１層からの流れ込みの可能性あり。	3421	39	図版48-③
図140	1	B区	DH-33区	SD-602	撹乱より西埋土	須恵器	坏蓋	外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。ロクロの回転方向は反時計回り。	3248	30	
	2	B区	DH-33区	SD-602	撹乱より西埋土	土師器	埦	内外面ともに荒れにより調整不明。	3246	30	
	3	B区	DH-33区	SD-602	撹乱より西埋土	土師器	埦	内外面ともに荒れにより調整不明。	3247	30	
	4	B区	DH-33区	SD-602	撹乱より西埋土	須恵質土器	坏	外面には糸切り離し痕が残る。ロクロからの切り離し時の歪みあり。	3250	30	
	5	B区	DG-33区	SD-602	撹乱より東側埋土下半部	須恵器	壺または甕	外面は平行タタキ調整の後、カキメが施される。内面は同心円文当て具痕が残る。	3253	30	
	6	B区	DH-33区	SD-602	撹乱より西埋土	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整。内面は同心円文当て具痕が残る。	3251	30	
図142	1	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	壺	内外面ともにナデ。	3010	30	図版46-②
	2	B区	DG-39区	SD-603	溝底	弥生土器	甕	内面はナデ。	3016	30	図版46-③
	3	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	甕	外面はナデ。	3065	30	
	4	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	鉢か	器壁の厚さから鉢の口縁部片と考えた。端部は面をなす。内外面ともにナデ。	3064	30	
	5	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	壺	内面には斜め方向に擦過痕が残る。	3070	30	
	6	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	壺	底部には砂粒の移動痕跡が残る。内面はケズリ。	3012	30	
	7	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	壺	平底だが、やや凹凸が見られる。	3066	30	
	8	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	高坏	外面はナデ。内面はしぼり痕が残る。	3068	30	
	9	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	甕	内面はナデ。外面および底部は摩滅により、調整不明。	3011	30	
	10	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	弥生土器	甕	外面はタタキ、内面は刷毛目調整が施される。	3067	30	
	11	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	土師器	甕	外面はナデ。内面は横方向にケズリが施される。	3071	30	
	12	B区	DH-39区	SD-603	埋土下部	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整、内面は同心円文当て具痕が残る。	3069	30	
図143	1	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	壺	外面には、うっすらと縦方向に伸びる刷毛目調整痕が残る。	3001	31	
	2	B区	DG-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	外面はナデ。	3060	31	
	3	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	壺	表面は荒れ、調整不明。	3072	31	
	4	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	内外面ともに摩滅により調整不明。	3014	31	図版45-⑬
	5	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	内外面ともに摩滅を受けて調整不明。	3003	31	図版45-⑭
	6	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	外面はナデ。内面は荒れにより調整不明。	3002	31	図版45-⑮
	7	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	壺	表面は摩滅しており調整不明。	3076	31	
	8	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	壺	外面はナデ。内面及び底部は荒れにより不明。	3004	31	
	9	B区	DG-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	外面は縦方向にミガキ。内面はナデ。	3062	31	
	10	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	外面は内外面ともにナデ。底部内面には黒斑が見られる。	3015	31	
	11	B区	DG-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	甕	表面は荒れ、調整不明。	3061	31	
	12	B区	DG-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	鉢	表面は全体に荒れ、調整不明。	3063	31	
	13	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	鉢	口縁端部を欠損す口縁部から胴部上半部片。内外面ともに荒れにより、調整不明。	3074	31	
	14	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	高坏？	器厚などから高坏脚端片と推定。端部は面取り。外面はナデ、内面は横ナデ。	3073	31	
	15	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	弥生土器	鉢	外面には指頭痕が残る。内面は板状工具を用いたケズリ。	3005	31	
	16	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	坏蓋	外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。	3080	31	
	17	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	坏身	口縁端部を欠損。内外面ともに回転横ナデ。	3006	31	
	18	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	坏蓋	外面は回転ヘラケズリ内面は回転横ナデ。ロクロの回転方向は反時計周り。	3081	31	
	19	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	坏身	外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。ロクロの方向は反時計回り。	3008	31	
	20	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	短頸壺	口径は反転復元で9.4cm。内外面ともに回転横ナデ。	3007	31	
	21	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺	外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。ロクロの回転方向は反時計回り。	3082	31	
	22	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺	胴部最大径は反転復元で９cm。内面は回転横ナデ調整。	3009	31	図版46-①
	23	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺または甕	外面は平行タタキ、内面には同心円文当て具痕が残る。	3078	31	
	24	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整後、カキメ。内面は同心円文当て具痕が残る。	3077	31	
	25	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整。	3084	31	
	26	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整。内面は同心円当て具痕が残る。	3075	31	
	27	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整後、カキメ。内面は同心円文当て具痕およびナデ消し調整が見られる。	3079	31	
	28	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺	坏身の可能性もあるが、器厚から壺と判断。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。ロクロの回転方向は反時計回り。	3083	31	

挿図	遺物No	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図143	29	B区	DH-39区	SD-603	埋土上部	須恵器	壺	内面は回転横ナデ。底部外面はヘラ切り後未調整。調整を意図しないナデが施される。	3013	31	
図144	1	B区	DH-39区	SD-604	埋土下部	弥生土器	壺	頸部外面はナデ。内面は摩滅で不明。	3018	31	
	2	B区	DH-39区	SD-604	底面貼付	弥生土器	壺	外面は火を受け、赤みを帯びる。荒れにより、調整不明。	3025	31	
	3	B区	DG-38・39、DH-39区	SD-604	溝底	弥生土器	甕	外面はナデ。口縁下端部がわずかに肥厚する。	3019	31	
	4	B区	DH-39区	SD-604	底面貼付	弥生土器	壺	器表面は荒れにより、調整不明。	3023	31	
	5	B区	DH-39区	SD-604	埋土下部	弥生土器	壺	内外面ともに刷毛目調整を施す。	3088	31	
	6	B区	DG・DH-38・39区	SD-604	底面貼付	弥生土器	壺	外面は刷毛目調整。内面は板状工具を用いたケズリ調整。	3087	31	
	7	B区	DH-39区	SD-604	底面貼付	弥生土器	甕	外面は火を受けて赤みを帯びる。外面には粘土の貼り付けが見られる。底部外面及び内面は摩滅で調整不明。	3022	31	
	8	B区	DG・DH-38・39区	SD-604	底面貼付	弥生土器	甕	表面は荒れにより、調整不明。	3086	31	
	9	B区	DH-39区	SD-604	底面貼付	弥生土器	甕または鉢	外面は荒れ、調整不明。黒斑が見られる。内面はナデ。	3024	31	
	10	B区	DG・DH-38・39区	SD-604	底面貼付	須恵器	坏	内面は回転横ナデ。底部にはヘラ切り離し痕が残る。	3252	31	
	11	B区	DG・DH-38・39区	SD-604	底面貼付	須恵器	坏蓋	外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。内面中央には不定方向にナデが施される。ロクロの方向は反時計回り。	3249	31	
	12	B区	DH-39区	SD-604	埋土下部	須恵器	坏蓋	外面は回転ヘラケズリ、内面は回転横ナデ。ロクロの方向は反時計回り。	3017	31	
	13	B区	DH-39区	SD-604	底面貼付	須恵器	坏身	外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。	3020	31	
	14	B区	DH-39区	SD-604	底面貼付	須恵器	短頸壺	内面及び口縁部外面は回転横ナデ。肩部外面はカキメが施される。	3021	31	図版46-⑳
	15	B区	DG・DH-38・39区	SD-604	底面貼付	須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整。内面は指頭痕が残る。	3085	31	
図145	1	B区	DH-39区	SD-610	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに荒れにより調整不明。	3243	31	
	2	B区	DH-39区	SD-610	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに荒れにより調整不明。	3241	31	
	3	B区	DH-39区	SD-610	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに荒れが著しいが、刷毛目調整がわずかに見られる。	3245	31	図版46-④
	4	B区	DH-39区	SD-610	埋土	弥生土器	ミニチュア高坏	内外面ともに荒れにより調整不明。	3244	31	
	5	B区	DH-39区	SD-610	埋土	須恵器	坏身	内外面ともに回転横ナデ。外面下部は回転ヘラケズリ。	3242	31	図版46-⑤
図148	1	B区	DH-33区	SK-647	埋土	土師器	甕	外面は縦および斜め方向に刷毛目調整。内面は荒れにより、調整不明。	3310	32	
	2	B区	DH-33区	SK-647	埋土下部	須恵器	坏身	外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。外面には粘土塊が付着する。	3035	32	
	3	B区	DH-32区	SK-662	掘り形埋土③層	弥生土器	壺	表面は全体に摩滅しており、調整などは不明。	3034	32	
	4	B区	DH-32区	SK-662	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに刷毛目調整。調整工具痕の形状などから図148-5と同一個体の可能性がある。	3045	32	図版46-⑦
	5	B区	DH-32区	SK-662	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	内外面ともに刷毛目調整。外面および底部には黒斑あり。	3031	32	
	6	B区	DH-32区	SK-662	掘り形埋土③層	弥生土器	高坏	内外面ともにナデ。	3033	32	図版46-⑧
	7	B区	DH-32区	SK-662	埋土＋Ⅲ層	土師器	甕	頸部は短く斜め上方にのび、端部は丸くおさめる。	3032	32	図版46-⑨
	8	B区	DH-32区	SK-662	DH-32-14区Ⅲ層下部	土師器	甕	口縁端部は面取り調整。内外面ともに横ナデ。	3335	32	
	9	B区	DI・DJ-31区	SK-693	西半部①層	須恵器	甑	端部は内面にあまい段をもつ。口縁部と頸部との境には段をもち、直下にシャープな突帯を１条巡らせる。内外面ともに回転横ナデ。	3257	32	図版46-⑥
	10	B区	DI・DJ-31区	SK-693	SP-702埋土＋SK-693埋土	土師器	甕	胴部上部外面はナデ。内面はケズリが施され、指頭痕が残る。	3263	32	
図149	1	B区	DH-32区	SK-663	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	底面は凸レンズ状を呈する。外面は縦方向にミガキを施し、少し乾燥した段階で、ナデを施す。板状工具の付着痕が残る。内面は刷毛目調整。	3029	32	
	2	B区	DH-32区	SK-663	西半部埋土	弥生土器	鉢	口縁部は上外方にのび、端部は丸くおさめる。内面頸部との境には稜をもつ。内外面ともに横ナデ。	3030	32	
	3	B区	DH-32区	SK-663上	DJ31-11区 Ⅲ層上部	須恵器	坏身	外面は回転ヘラケズリ。内面は回転横ナデ。ロクロは反時計回り。	3298	32	
図150	1	B区	DH-32区	SK-663	Ⅲ層部分	石器	磨石	花崗岩の円礫を用いる。端部に擦過痕が見られる。全長9.3cm、幅8.9cm、厚さ4.5cm。重量511ｇ。	3449	39	図版49-⑦
図152	1	B区	DI-31区、DI-31・32区	SK-690	埋土＋SK-705埋土＋SK-713埋土	弥生土器	壺	外面は、頸部に横方向、胴部に縦方向のミガキ。内面は、胴部に横方向のミガキを施す。頸部内面には指頭痕が残る。外面は部分的に荒れ、内面は粘土紐の積み上げに対応する剥離痕を確認できる。外面には焼成破裂痕も確認できる。焼成時破損土器片と接合している。図153-3と同一個体の可能性あり。	3462	33	図版41-⑬・⑭
	2	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	壺	外面はナデの後、重弧文を８条施す。内面は幅２～2.5㎜のヘラミガキを施す。	3311	33	図版42-③
	3	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	壺	内外面とも横方向にナデ。	3468	33	図版42-④
	4	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	壺	摩滅により肩部の調整は不明。口縁部は内外面ともナデ。頸部内面にはヘラ状工具痕が残る。口縁部下半には、クレーター状の円形剥離痕（焼成破裂痕）が残る。	3471	33	図版42-⑤
	5	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	壺	摩滅により、外面調整不明。内面には指頭痕が残る。	3469	33	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図152	6	B区	DI-31区、DI-31区、DI-31-14区、DI-31-19区	SK-690	埋土＋SK-705 埋土＋SK-713 埋土＋SK-725 埋土＋SP-704 埋土	弥生土器	壺	外面はミガキ。焼成破裂痕が残る。内面は、胴部中位にナデを施し、指頭痕が残る。下半は横方向にミガキを施す。底部外面や内面の一部は表面が脆くなっている。	3461	33	図版42-①・②
図153	1	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデ。口縁部内面下半は横方向の刷毛目調整。図153-4と同一個体の可能性あり。	3467	34	
	2	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	壺	小破片のため径は不明。内面は縦方向にナデ、口縁端部は横方向にナデ。外面は指頭痕が残る。	3466	34	
	3	B区	DI-31区	SK-690	埋土＋上層埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向、内面は横方向にミガキ。底部内外面には指頭痕が残る。外面底部付近には板状工具による押圧痕が残る。	3475	34	図版42-⑥
	4	B区	DI-31区	SK-690	埋土＋SP-688②・③・④層、SP-688北半部④層	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向にミガキ、底部付近は横方向の刷毛目調整を施す。内面は摩滅しており、調整不明。底部外面には指紋が残る。	3460	34	図版42-⑦
	5	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	甕	外面は摩滅のため調整不明、内面はわずかにケズリ痕が残る。	3473	34	
	6	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	甕	外面は上部に縦方向のミガキ、屈曲部に横方向の刷毛目調整、端部付近に横方向にナデを施す。内面は縦方向にナデ。底外面には反時計回りに、強い横方向のナデを施す。	3465	34	
	7	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	甕	底面は円盤を充填して成形する。内面は全面に煤が付着しており、一部は煮炊きのためか器壁がえぐれ、コゲ状のものが入り込む。	3472	34	
	8	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	甕	胴部外面は縦方向に刷毛目調整、内面は縦方向にケズリ・ミガキを施す。底部は、外面に指頭痕、板またはヘラによる押し当て痕が残る。内面には指頭痕が残る。底部端部は横方向にナデが施される。	3474	34	図版43-①
	9	B区	DI-31区	SK-690	埋土＋SP-688②・③・④層	弥生土器	鉢	ミニチュア土器。底径4.0cm、器高6.2cm。底部は上げ底。口縁端部を折り曲げ、外側に折り込む。内外面ともにナデ。指頭痕が残る。	3470	34	図版43-②
	10	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	鉢	小片のため、径は不確実。内外面とも摩滅し、口縁部内面はナデ。器表面に黒化層が露出し、破断面は外面と同じく橙色を呈する部分も見られる。焼成時または焼成後に破損し、二次的に被熱したと考えられる。	3463	34	
	11	B区	DI-31区	SK-690	埋土	弥生土器	鉢	小片のため径は不確実。外面は、胴部に縦方向にミガキ、口縁部に指頭痕が残る。内面は横方向の刷毛目調整の後、胴部に縦方向のミガキを施す。	3464	34	
図154	1	B区	DI-31区	SK-690	埋土	石器	台石	上面・側面には敲打痕が認められる。砂岩製。全長17.3cm、幅15cm、厚さ5.2cm。重量2.3kg。	3443	40	図版52-②
	2	B区	DI-31区	SK-690	埋土	石器	台石	表面には小さな凹凸が多数見られる。砂岩製。残存長7.6cm、幅7cm、厚さ5.2cm。残存重量341.1g。	3434	40	図版48-⑬
図155	1	B区	DH-32区	SK-695	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに横ナデ。頸部外面のみ刷毛目調整を施す。肩部外面は縦方向にミガキ、内面には指頭痕が残る。	3262	35	図版43-③
	2	B区	DH-32区	SK-695	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3258	35	
	3	B区	DH-32区	SK-695	Ⅲ層部分	弥生土器	甕	頸部の付け根内面には沈線を1条施す。内外面ともに横ナデ。	3271	35	
	4	B区	DH-32区	SK-695	埋土	弥生土器	壺	内面は荒れにより調整不明。	3261	35	図版43-④
	5	B区	DH-32区	SK-695	埋土	弥生土器	鉢	外面は荒れにより調整不明。内面は上部にケズリを施す。下部には指頭痕が残る。	3259	35	
	6	B区	DH-32区	SK-695	埋土	弥生土器	壺	外面は縦方向にヘラミガキ。内面は縦方向にケズリの後、横ナデ。底部中央には指頭痕が残る。	3260	35	
図156	1	B区	DH-32区	SK-695	埋土	石器	磨石	花崗岩の円礫を使用。側面には擦過痕が見られる。全長10.1cm、幅7.8cm、厚さ5.5cm。重量503.8g。	3432	40	図版51-③
図157	1	B区	DI-31・32区	SK-697	③層	土師器	甕	内外面ともに横ナデ。	3225	35	
	2	B区	DI-31・32区	SK-697	③層	弥生土器	甕	頸部の付け根内面に沈線を1条施す。内外面ともに横ナデ。	3226	35	
	3	B区	DI-31・32区	SK-697	埋土	弥生土器	甕	口縁部は内外面とともに強い横ナデ。胴部は内外面ともに縦方向に刷毛目調整を施す。	3238	35	図版43-⑤
	4	B区	DI-31・32区	SK-697	③層	弥生土器	壺	外面は刷毛目調整。内面はケズリを施す。	3227	35	
	5	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	甕	頸部の付け根外面には横ナデ。その他は荒れにより調整不明。	3216	35	
	6	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	甕	頸部の付け根外面には強い横ナデ。以下は刷毛目調整。内面は横ナデを施す。	3221	35	
	7	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	壺	外面はナデ、内面はケズリを施す。底部外面は荒れにより調整不明。	3219	35	
	8	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	壺	外表面は剥離。内面は縦方向にミガキを施す。	3220	35	
	9	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	甕	端部外面は横ナデ。指頭痕が残る。内面はナデを施す。	3222	35	
	10	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	甕	外面はミガキ、内面はヘラケズリを施す。底部外面はナデを施す。	3218	35	
	11	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	甕	外面は縦方向にミガキを施す。内面はヘラケズリを施す。	3223	35	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図157	12	B区	DI-31・32区	SK-697	①～③層	弥生土器	鉢	口縁部から頸部は内外面ともに横ナデを施す。胴部はナデを施す。	3239	35	図版43-⑥
	13	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	高坏	端部中央に稜をもつ。内外面ともに横ナデを施す。	3217	35	
	14	B区	DI-31・32区	SK-697	①層	弥生土器	高坏	外面は横ナデの後、ミガキを施す。貫通する透かし孔を施す。内面脚端部近くは横ナデ。上部には指頭痕が残る。	3224	35	
図158	1	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	甕	胴部内外面に縦方向の刷毛目調整を施した後、口縁部の内外面に横方向にナデ。胎土、器壁の厚さから、図169-13と同一個体の可能性もある。	3499	35	図版44-①
	2	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向のヘラナデ。内面は摩滅のため調整不明。	3498	35	
	3	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	鉢	指頭によるナデとオサエによって成形。	3494	35	
	4	B区	DI-31区、DI-31・32区)	SK-705	埋土	弥生土器	壺	外面は、板状工具またはヘラによる縦方向にナデの後、上半部に横方向にミガキ、下半部に縦方向にミガキを施す。上半部のミガキは、上方は間隔を密に折り返して施され、下方は散発的に施される。内面は、表面の剥落・摩滅が著しい。	3492	35	図版43-⑦
	5	B区	DI-31区	SK-705	埋土	弥生土器	壺	外面上半部に縦方向にミガキ。下半部に横方向にミガキを施す。内面下半は下から上へケズリを施す。上半部には指頭痕が残る。	3491	35	図版43-⑧
	6	B区	DI-31区、DI-31・32区、DH～DJ-31・32区、DI-31-14区、DI-31-19区、DH-33区	SK-705	埋土＋攪乱部	弥生土器	壺	外面上半部は横方向にミガキ、下半部は板状工具またはヘラによる押し当て痕や指頭痕が残る。自重による潰れが認められる。内面はナデ。指頭痕が残る。	3489	35	図版44-④
	7	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	高坏	外面は横方向にナデ。内面は横方向にナデを施す。外面左半分に黒斑を有する。	3490	35	図版44-②
	8	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	高坏	透孔は確認されなかった。外面は縦方向の刷毛目調整、内面はナデが施される。内面にはしぼり痕が残る。	3496	35	
	9	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	高坏	外面はヘラミガキを施す。内面には指頭痕が残る。	3497	35	図版44-③
	10	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	高坏	外面は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。内面には指頭痕が残る。	3495	35	
	11	B区	DI-31・32区	SK-705	埋土	弥生土器	土製品	欠損しており、全体形は不明。1.5ｇ。	3493	35	
図160	1	B区	DI-31区	SK-705	埋土	石器	磨石・叩き石	上面中央には径約１cmの円形に敲打痕が残る。また、側面にも敲打痕が見られる。堆積岩製。全長19cm、幅11.2cm、厚さ11.4cm。重量3.75kg。	3442	41	図版51-①
	2	B区	DI-31区	SK-705	埋土	石器	台石	上面に敲打痕が残る。堆積岩製。全長27.4cm、幅19.2cm、厚さ14.6cm。重量13.45kg。	3444	41	図版52-①
図161	1	B区	DH・DI-32区	SK-710	埋土	弥生土器	甕	外面は刷毛目調整。内面はケズリを施す。	3234	36	
	2	B区	DH・DI-32区	SK-710	埋土	弥生土器	高坏	表面は剥離。内面は横ナデ。	3240	36	
図163	1	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	壺	内外面ともに表面の荒れが著しい。	3056	36	図版45-②
	2	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	壺	内面には指頭痕が残る。外表面は摩滅し、調整不明。黒斑が見られる。底部外面はケズリを施す。	3051	36	
	3	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	壺	外面にうっすらと縦方向に刷毛目調整が施される。内面は指頭痕が残る。	3058	36	図版45-⑤
	4	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	甕	内面には横方向に刷毛目調整を施す。	3053	36	
	5	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	甕	摩滅により調整不明。	3054	36	
	6	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	甕	口縁端部は面取り調整を行う。内外面ともに摩滅し調整不明。	3055	36	図版45-③
	7	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	壺	外面は横ナデを施す。内面は摩滅。	3411	36	
	8	B区	DH-31区	SK-711	炭内	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。口縁部と胴部との境には、内面に明瞭な稜をもち、上方に沈線を１条施す。	3099	36	
	9	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。	3052	36	
	10	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	高坏	内面は横ナデを施す。	3050	36	図版45-①
	11	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	高坏	外面は荒れにより調整不明。内面は強い横ナデを施す。	3049	36	
	12	B区	DH-31区	SK-711	埋土	弥生土器	台付鉢	鉢部は内外面ともに荒れにより、調整不明。二次焼成を受ける。	3057	36	図版45-④
図164	1	B区	DH-31区	SK-711	埋土	石器	叩き石	砂岩の扁平な礫を使用。上部を欠損。側面には敲打痕が見られる。残存長4.6cm、幅6.6cm、厚さ1.9cm。残存重量115.4ｇ。	3431	40	図版49-⑥
	2	B区	DH-31区	SK-711	埋土	石器	砥石	大半を欠損。上面及び側面が使用面で、側面は大きくすり減る。花崗岩。残存長4.6cm、幅5.2cm、厚さ4.8cm。残存重量93.4ｇ。	3440	40	図版48-⑭
	3	B区	DH-31区	SK-711	埋土	石器	台石	上部端部を欠損。花崗岩。残存長15.8cm、幅8.2cm、厚さ6.8cm。残存部重量1.215kg。	3436	40	図版49-⑧
図165	1	B区	DI-31区	SK-713	埋土	弥生土器	甕または鉢	頸部の付け根外面に横ナデ、胴部外面は縦方向にナデを施す。内面は横ナデを施す。	3233	36	
	2	B区	DI-31区	SK-713	埋土	弥生土器	甕	頸部の付け根外面に横ナデ、胴部は刷毛目調整および縦方向にミガキを施す。内面は横ナデ調整および横方向にミガキを施す。	3229	36	
	3	B区	DI-31区	SK-713	埋土	弥生土器	甕	外面は横ナデを施す。内面はナデ。底部には板状工具の押し当て痕が残る。	3232	36	
	4	B区	DI-31区	SK-713	埋土	弥生土器	鉢または高坏	外面は荒れにより調整不明。内面は横方向にミガキを施す。	3230	36	
	5	B区	DI-31区	SK-713	埋土	弥生土器	鉢	外面はミガキ、内面はケズリが施される。	3231	36	
	6	B区	DI-31区	SK-713	埋土	弥生土器	鉢	口縁部近くで外方に大きく屈曲する。内外面ともに横ナデを施す。	3228	36	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図166	1	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土上半部	弥生土器	壺	外面は横ナデ、内面はナデを施す。	3184	36	図版44-⑨
	2	B区	DI-32区	SK-725	埋土中部	弥生土器	壺	外面は、縦方向に刷毛目調整、内面はナデを施す。	3189	36	図版44-⑩
	3	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土最下部	弥生土器	壺	口縁部周辺は内外面ともに強い横ナデ、頸部下半部外面には縦方向にケズリを施す。内面にはしぼり痕が明瞭に残る。	3201	36	
	4	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。	3202	36	
	5	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土上半部	弥生土器	甕または鉢	内外面ともに横ナデを施す。頸部内面には明瞭な稜をもつ。	3180	36	
	6	B区	DI-32区	SK-725	埋土中部	弥生土器	鉢	内外面ともにナデを施す。	3186	36	
	7	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土壁際	弥生土器	甕または鉢	内外面ともに横ナデを施す。頸部内面には明瞭な稜をもつ。	3179	36	
	8	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土最下部	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。頸部内面には明瞭な稜をもつ。	3197	36	
	9	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土上半部＋SC-670埋土	弥生土器	甕	口縁部外面には幅狭の刷毛目調整を施す。内面には指頭痕が残る。肩部には板状工具を用いた刷毛目調整。胴部は外面ナデ、内面ケズリを施す。	3136	36	図版44-⑤
	10	B区	DI-31区	SK-725	埋土（SP-720周辺）	弥生土器	甕	頸部の付け根には横方向に強いナデ。以下は縦方向にナデを施す。内面はナデを施す。	3178	36	
	11	B区	DI-32区	SK-725	埋土中部	弥生土器	鉢	内外面ともに横ナデを施す。	3185	36	
	12	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土上半部	弥生土器	甕	頸部付け根外面に強い横ナデ、以下はナデ。内面はケズリおよび刷毛目調整を施す。	3183	36	
	13	B区	DI-32区	SK-725	埋土中部	弥生土器	鉢	内外面ともにナデを施す。	3187	36	
	14	B区	DI-32区	SK-725	埋土中部	弥生土器	壺	内外面ともにナデを施す。	3188	36	
	15	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土上半部	弥生土器	壺	内面は荒れにより、調整不明。	3181	36	
	16	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土最下部	弥生土器	壺	内外面ともにナデを施す。	3198	36	
	17	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土上半部	弥生土器	高坏	口縁端部外面、端部直下は横ナデを施す。その他はナデを施す。	3182	36	
	18	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土下部	弥生土器	高坏	外面は縦方向にミガキを施す。内面にはしぼり痕が残る。	3203	36	
	19	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土最下部	弥生土器	高坏	内面はケズリを施す。	3199	36	図版44-⑪
	20	B区	DH・DI-31・32区	SK-725	埋土最下部	弥生土器	高坏	外面はナデ。内面は荒れにより、調整不明。	3200	36	
図167	1	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	壺	外面は横ナデ。内面はナデを施す。	3194	36	
	2	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	壺	外面には板状工具の小口の押し当て痕が残る。内面は横ナデを施す。	3192	36	
	3	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	甕	外面はナデおよび刷毛目調整。内面はケズリを施す。	3190	36	
	4	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	甕	外表面は荒れで調整不明。内面はナデを施す。	3191	36	
	5	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	甕	突帯の凹み部には爪の痕跡が残る。頸部外面は横ナデ、内面はナデを施す。	3193	36	
	6	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	甕	突帯には布を巻いた指頭による刻み目が施される。	3196	36	
	7	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土上部	弥生土器	壺	外面はナデ、内面は刷毛目調整を施す。	3195	36	
図168	1	B区	DI-31区	SK-732もしくはSK-725	埋土	石器	剥片	緑色片岩。残存長2.6cm。重量1.9ｇ。	3427	40	図版48-④
図169	1	B区	DI-31区	SK-739	埋土上～中部	弥生土器	壺	摩滅が著しく、調整は不明。	3476	37	図版44-⑥
	2	B区	DI-32-7区	SK-739上	Ⅲ層上部	弥生土器	壺	外面はナデ。内面は荒れが著しいが、指頭痕が明瞭に残る。	3343	37	
	3	B区	DI-31区	SK-739	埋土上～中部	弥生土器	壺または甕	外面はナデの後、板状工具を用いた刺突文が施される。内面は縦方向に刷毛目調整。	3479	37	
	4	B区	DI-31区	SK-739	埋土下部	弥生土器	甕	外面は、縦方向に刷毛目調整。内面は、刷毛目調整を施す。	3487	37	
	5	B区	DI-31・32区	SK-739	埋土下部	弥生土器	壺	胴部外面は縦方向・斜め方向にヘラミガキ。内面はケズリが施される。底部及び胴部下部の一部に黒斑あり。	3215	37	図版44-⑧
	6	B区	DI-31区	SK-739	埋土下部	弥生土器	壺	外面は摩滅のため調整不明。内面下半部には指頭痕が残る。	3483	37	
	7	B区	DI-31区	SK-739	埋土下部	弥生土器	甕	復元口径20.0cm。内外面とも横方向にナデを施す。	3485	37	
	8	B区	DI-31区	SK-739	埋土上～中部	弥生土器	甕	内外面ともに横方向にナデを施す。	3480	37	
	9	B区	DI-31区、DI-31・32区	SK-739	埋土＋SK-739埋土上～中部＋SK-697①層	弥生土器	甕	胴部は、外面に幅4㎜のミガキ、内面に縦方向の刷毛目調整（9本／1cm）を施す。外面には部分的に煤が付着。	3482	37	図版44-⑦
	10	B区	DI-31区	SK-739	埋土下部	弥生土器	甕	復元口径21.0cm。磨滅のため調整は不明瞭。	3488	37	
	11	B区	DI-31区	SK-739	埋土上～中部	弥生土器	甕	外面は縦方向にミガキの後、口縁部と胴部の境に横方向にナデを施す。内面は、口縁部にナデ、胴部に板またはヘラ状工具を用いたナデを施す。	3481	37	
	12	B区	DI-31区	SK-739	埋土上～中部	弥生土器	甕	胴部は内外面とも横方向にミガキ調整。内面には指頭痕が残る。	3477	37	
	13	B区	DI-31区、DI-31・32区	SK-705	埋土＋SK-739埋土	弥生土器	甕	外面は縦方向にミガキ。指頭痕が残る。内面は縦方向のナデを施す。	3500	37	
	14	B区	DI-32-7区	SK-739上	Ⅲ層下部	弥生土器	鉢	内外面ともにナデを施す。	3321	37	
	15	B区	DI-31区	SK-739	埋土下部	弥生土器	甕	外面は横方向のナデ、内面は摩滅のため調整不明。	3486	37	
	16	B区	DI-31区	SK-739	埋土下部	弥生土器	高坏	摩滅が著しく調整は不明。内面はしぼり痕が残る。推定で7方向透しと考えられる。	3484	37	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図169	17	B区	DI-31区	SK-739	埋土上～中部	弥生土器	高坏	外面は縦方向にミガキ。内面はヘラ状工具によるオサエ調整と考えられる。破片下半部には、内外面ともに指頭痕が残る。	3478	37	
図170	1	B区	DI-31区	SX-669	埋土	弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。外面には顔料が付着。	3047	37	
	2	B区	DI-31区	SX-669	埋土	弥生土器	壺	外面は板状工具による約8㎜幅の擦過痕が残る。内面は頸部に横ナデ。以下には指頭痕が残る。	3048	37	
	3	B区	DI-31区	SX-669	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデを施す。	3046	37	
図172	1	B区	DH-39区	SP-611	埋土	須恵質土器	壺または甕	外面は平行タタキ調整、内面はナデを施す。	3273	37	
	2	B区	DH-39区	SP-611	埋土	須恵質土器	壺または甕	外面は格子タタキ調整。内面には同心円文当て具痕が残る。	3274	37	
	3	B区	DH-39区	SP-611	埋土	備前焼	壺	端部外面は折り曲げられ、玉縁状を呈する。内外面ともに回転横ナデ。	3276	37	
	4	B区	DH-39区	SP-611	埋土	土師器	皿	内外面ともに荒れにより調整不明。	3275	37	
	5	B区	DH-39区	SP-611	埋土	陶器	擂り鉢	表面は荒れにより、調整不明。	3284	37	
	6	B区	DH-39区	SP-611	埋土	陶器	鉢	内外面ともに荒れにより、調整不明。	3272	37	
	7	B区	DH-39区	SP-611	埋土	備前焼	擂り鉢	内外面ともに回転横ナデ。内面下半部に擂り目が施される。	3278	37	
	8	B区	DH-39区	SP-611	埋土	備前焼	擂り鉢	外面上部は横ナデ、下部はケズリを施す。	3277	37	
	9	B区	DH-39区	SP-611	埋土	陶器	人形	頭部から頸部を大きく欠損。表面には薄く釉薬が残存。胴部は中実。残存長3.9㎝。	3313	37	図版46-⑭
	10	B区	DH-39区	SP-611	埋土	陶器	蓋	天井部に直径約2㎝のつまみをもつ。内外面ともにナデを施す。	3280	37	
	11	B区	DH-39区	SP-611	埋土	陶器	短頸壺	内外面ともに回転横ナデ。茶褐色の釉が施される。	3279	37	
	12	B区	DH-38区	SP-628	埋土	土師器	皿	底部小片。底部には回転糸切り離し痕が残る。	3268	37	
図173	1	B区	DH-38区	SP-607	埋土	弥生土器	壺	端部は上下に拡張し、端面は横ナデ。内外面ともにナデを施す。	3264	37	
	2	B区	DH-32区	SP-655	埋土	弥生土器	壺	内外面ともにナデを施す。外面には、工具あるいは爪の付着痕が残る。	3041	37	
	3	B区	DH-31・32区	SP-656	埋土	弥生土器	壺	頸部は直立気味にたちあがる。外面は横ナデにより段をなす。内面上半に強い横ナデ。下半部には指頭痕が残る。	3042	37	
	4	B区	DH-31・32区	SP-656	埋土	弥生土器	壺	表面は剥離。全体に摩滅しており調整不明。	3043	37	
	5	B区	DH-31・32区	SP-656	埋土	弥生土器	壺	外面は頸部付近に横ナデ、胴部はナデを施す。内面は摩滅。胴上部には指頭痕や刷毛目調整、中央にはケズリ痕が残る。	3044	37	
	6	B区	DH-32区	SP-659上	Ⅲ層部分	弥生土器	壺	外面はナデ、内面は横ナデを施す。	3036	37	
	7	B区	DH-32区	SP-665	Ⅲ層部分	弥生土器	甕	端部は強く尖り気味におさめる。内外面ともに横ナデを施す。	3037	37	
	8	B区	DH-31区	SP-668	埋土下部	弥生土器	鉢	端部は尖り気味におさめる。外面はナデ、内面は荒れにより、調整不明。	3038	37	
	9	B区	DI-32区	SP-672	埋土	弥生土器	壺	外面は縦方向の刷毛目調整。内面は横方向の刷毛目調整を施す。指頭痕が残る。	3098	37	
	10	B区	DI-31区	SP-677	南半部埋土	弥生土器	甕	直線的に広がる口縁部片。端部は欠損する。外面には刻み目の施された突帯文を施す。	3093	37	図版45-⑩
	11	B区	DI-31区	SP-677	南半部埋土	弥生土器	鉢	頸部との境には強い横ナデを施す。外面はナデ、頸部内面は横ナデ、胴部は斜め方向に刷毛目調整を施す。	3092	37	
	12	B区	DI-31区	SP-683	Ⅲ層埋土	弥生土器	甕	外面は横ナデ。内面は横方向に刷毛目調整を施す。	3108	37	図版45-⑥
	13	B区	DI-31・32区	SP-699	埋土	弥生土器	壺	口縁端部は面取り調整。外面はナデ、内面は横ナデを施す。	3147	37	
	14	B区	DI-31・32区	SP-699	埋土	弥生土器	甕	口縁端部は内湾気味。内外面ともに横ナデを施す。	3146	37	
	15	B区	DI-31・32区	SP-699	埋土	弥生土器	甕	端部近くでわずかに上方へ屈曲させる。端部は面取り調整。内外面ともに横ナデを施す。	3148	37	
	16	B区	DI-31区	SP-701	埋土	土製品		大半を欠損する。分銅形土製品の一部か。2.6g。	3414	37	
	17	B区	DI-32区	SP-708	埋土	弥生土器	高坏	端部は面取り調整。外面は横ナデ、内面はナデを施す。	3156	37	
	18	B区	DH-32区	SP-724	埋土	弥生土器	壺	外面はナデ。内面は口縁部近くにナデを施す。胴部には指頭痕が残る。	3175	37	
	19	B区	DH-32区	SP-724	埋土	弥生土器	壺	内外面ともにケズリが施される。	3174	37	
	20	B区	DH-32区	SP-724	埋土	弥生土器	甕	内外面ともにナデを施す。	3173	37	
図174	1	B区	DJ-31区	SP-682	埋土	須恵器	坏蓋	口縁端部内面には凹線状の段をもつ。内外面ともに回転横ナデを施す。	3204	38	
	2	B区	DH-36区	SP-624	埋土上部	土師器	壺	口縁端部は尖り気味におさめる。全体的に荒れにより調整不明。	3270	38	
	3	B区	DH-35・36区	SP-626	埋土	弥生土器	壺	外面は全体にナデ。頸部付け根のみ横ナデ。内面上部は指頭痕が残る。下部には縦方向にケズリ調整が施される。	3412	38	
	4	B区	DH-35・36区	SP-626	埋土	弥生土器	甕	外面は刷毛目調整。内面は摩滅気味。板状工具の押圧痕が残る。	3267	38	
	5	B区	DH-35・36区	SP-626	埋土	弥生土器	鉢か	内外面ともに横ナデを施す。	3265	38	
	6	B区	DH-35・36区	SP-626	埋土	土師器	甕	口縁部は外方に開き、端部は面取り調整を施す。内外面ともに荒れにより、調整不明。	3266	38	
	7	B区	DI-31区	SP-702	南半部(下部遺構遺物混じり)	弥生土器	壺	内外面ともに荒れにより、調整不明。	3160	38	図版46-⑬
	8	B区	DI-31区	SP-702	南半部(下部遺構遺物混じり)	弥生土器	甕	頸部付け根に、指頭による刻みが施された突帯が施される。	3162	38	
	9	B区	DI-31区	SP-702	埋土	弥生土器	鉢	外面は刷毛目調整、内面はナデが施される。指頭痕が残る。	3163	38	

挿図	遺物No.	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図174	10	B区	DI-31区	SP-702	南半部(下部遺構遺物混じり)	分銅形土製品		大半を欠損し、端部の一部のみ残存。表面はナデが施される。3.3ｇ	3161	38	図版46-⑫
	11	B区	DH-31区	SP-721	埋土	弥生土器	高坏	脚端部直上に３条、脚端部には１条の凹線文が巡る。未貫通の矢羽状透かしが施され、上部には沈線が巡る。内面は小さな凹凸が見られるが、表面は荒れ、調整不明。	3159	38	図版46-⑪
	12	B区	DH-31区	SP-721	埋土	土師器	甕	口縁は面取り調整。外面は荒れにより調整不明。口縁部内面は指頭痕が残る。胴部内面には縦方向に刷毛目調整が施される。	3306	38	図版46-⑩
図175	1	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	拡張した口縁端部には凹線文が、下端には円形刺突が施される。	3382	38	図版47-①
	2	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	内外面ともに横ナデが施される。	3353	38	
	3	B区	DI-31-15区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	口縁端部を上下に拡張し、端面に凹線文を３条施す。	3319	38	
	4	B区	DI-31-16･21、DI-32-1・6・11区	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	口縁端部外面には、凹線文が２条巡る。内外面ともに横ナデを施す。頸部外面には刺突文が巡る。	3328	38	図版47-②
	5	B区	DH-32区	Ⅲ層		弥生土器	壺	口縁端部は凹線状にくぼむ。外面は横ナデを施す。内面は端部直下に板状工具によるナデ、以下には刷毛目調整が施される。	3402	38	図版47-⑤
	6	B区	DI-31-22区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	口縁端部はくぼむ。外面はナデ、内面は横ナデが施される。	3341	38	
	7	B区	DI-31-24区	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	口縁端部は上下に拡張する。内外面ともに横ナデを施す。	3372	38	
	8	B区	DH-32-8区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	口縁部は直立し、外面に凹線文を６条施す。吉備系。	3379	38	図版47-③
	9	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	内面は横方向にミガキが施される。	3367	38	図版47-④
	10	B区	DI-32-3区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	口縁部端面には凹線文が１条巡る。外面は横ナデを施す。	3329	38	
	11	B区	DH-31-15区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺または甕	口縁端部は下方に肥厚する。全体に摩滅し表面は荒れる。	3354	38	
	12	B区	DH～DJ-31・32区	Ⅲ層		弥生土器	壺または甕	口縁端部は欠損。内外面ともに荒れが著しい。	3351	38	
	13	B区	DI-31・32区	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	外面はナデを施す。内面摩滅。	3368	38	図版47-⑦
	14	B区	DI-31・32区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	外面には沈線が１条巡り、直下に板状工具の角を用いた刺突文が巡る。内面には指頭痕が残る。	3381	38	
	15	B区	DI-32-11区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	外面横ナデおよびナデを施す。内面はナデ。指頭痕が残る。外面は二次的に火を受ける。	3332	38	
	16	B区	DH-38区	Ⅲ層		弥生土器	壺	外面の一部には幅の狭いのヘラ状工具を用いたケズリ。内外面には指頭痕が残る。	3396	38	
	17	B区	DH-32区	Ⅲ層		弥生土器	壺	外面は縦方向にミガキ。内面はヘラケズリを施す。	3408	38	
	18	B区	DI-31-24区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	わずかに上げ底。外面はナデ、内面はケズリを施す。	3406	38	
	19	B区	DI-31-22区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	外面は縦方向に刷毛目調整を施す。	3363	38	
	20	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	壺	外面はナデ、内面は刷毛目調整を施す。指頭痕が残る。	3395	38	
	21	B区	DI-32-2区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	外面はナデ。底部外面は刷毛目調整を施す。	3386	38	
	22	B区	DI-31-19区	Ⅲ層上部		弥生土器	壺	底部は丁寧にナデが施される。外面は縦方向にヘラミガキ。内面は板状工具の押し当て痕が残る。	3407	38	
	23	B区	DH-32区	Ⅲ層上部		弥生土器	甕	端面には深くしっかりとした凹線文が３条巡る。外面は横ナデ。内面は板状工具を用いたナデが施される。	3370	38	
	24	B区	DI-32-2区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	口縁端部は凹線文が１条巡る。内面は横ナデが施される。	3365	38	
	25	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3366	38	
	26	B区	DH-32-8区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3360	38	
	27	B区	DI-31-24区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともに横ナデ。	3344	38	
	28	B区	DH～DI-31・32区	Ⅲ層		弥生土器	甕	外面は、頸部の付け根には強い横ナデを施す。内面は、頸部と胴部との境に明瞭な稜が巡り、胴部には刷毛目調整が施される。	3348	38	図版47-⑥
	29	B区	DH-32-14区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内面は板状工具痕が明瞭に残る。	3336	38	
	30	B区	DH-32-15区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともに表面は摩滅。	3320	38	
	31	B区	DH-32区	Ⅲ層上部		弥生土器	甕	外面は横ナデを施す。	3374	38	
	32	B区	DH-32-15区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。	3325	38	
	33	B区	DI-31-23区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	口縁端部は面取り調整。内外面ともに荒れが著しい。	3350	38	
	34	B区	DI-32-11区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともにナデを施す。	3324	38	
	35	B区	DH-31・32区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	表面は荒れ調整不明。	3362	38	
	36	B区	DI-31-16･20、DI-32-1・6・11区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	外面はナデおよび縦方向に刷毛目調整を施す。	3375	38	
	37	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	外面は荒れ、内面はナデを施す。	3345	38	
	38	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	外面は横ナデ。内面は摩滅により調整不明。	3317	38	
	39	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともに横ナデを施す。	3331	38	
	40	B区	DH-32-14区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	頸部の付け根は強い横ナデを施す。内面は刷毛目調整を施す。	3373	38	
	41	B区	DI-31-23区	Ⅲ層上部		弥生土器	甕	内面には明瞭な稜が巡る。	3330	38	
	42	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内面は刷毛目調整を施す。	3376	38	
	43	B区	DI-31-24区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	外面は横ナデを施す。	3399	38	
	44	B区	DH-32区	Ⅲ層		弥生土器	甕	外面はナデを施す。脚端部付近には指頭痕が残る。内面は放射状に板状工具を用いたケズリが施される。	3410	38	
	45	B区	DI-31-24区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	内外面ともにナデを施す。	3371	38	
	46	B区	DI-32-11区	Ⅲ層下部		弥生土器	甕	外面は縦方向にヘラミガキ、内面はナデを施す。	3387	38	
	47	B区	DH-32区	Ⅲ層		弥生土器	甕	器壁が厚く、支脚の可能性あり。表面は摩滅しており調整不明。	3397	38	

挿図	遺物№	調査区		出土層位・遺構	出土状況	種別	器種	形状・器面調整・胎土・焼成などの特徴	遺物登録番号	コンテナ番号	備考
図175	48	B区	DH-38区	Ⅲ層		弥生土器	甕	外面は縦方向に刷毛目調整。内面は指頭及び板状工具によるナデが施される。	3358	38	
	49	B区	DH-31-24区	Ⅲ層		弥生土器	甕	内外面ともにナデを施す。	3384	38	
	50	B区	DI-31-25区	Ⅲ層上部		弥生土器	甕	外面は縦方向にヘラミガキを施す。内面は荒れにより調整不明。	3404	38	
図176	1	B区	DI-31-16区	Ⅲ層上部		弥生土器	高坏	口縁端部は凹線状のくぼみをもち、外面には５条の凹線文が巡る。内面はナデを施す。	3352	38	図版47-⑧
	2	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	高坏	口縁端部は面取り調整を施し、外面には凹線文が６条巡る。	3388	38	
	3	B区	DI-31-15区	Ⅲ層上部		弥生土器	高坏	外面には凹線文が２条施される。	3389	38	
	4	B区	DH-31-24区	Ⅲ層上部		弥生土器	高坏	表面は荒れにより調整不明。	3393	38	
	5	B区	DI-32-7区	Ⅲ層上部		弥生土器	高坏	脚部片か。内外面ともにナデを施す。	3342	38	
	6	B区	DH-32区	Ⅲ層上部		弥生土器	高坏	内面にはしぼり痕が残る。	3377	38	図版47-⑨
	7	B区	DI-31-15区	Ⅲ層上部		弥生土器	高坏	脚端部は上方に拡張する。外面には矢羽根状透かしが穿孔され、端部直上には幅広の凹線文を３条施す。	3391	38	図版47-⑩
	8	B区	DH～DJ-31・32区	Ⅲ層		弥生土器	高坏	脚端部は上方に拡張させる。外面には矢羽根状透かしが施される。脚端部直上には幅広の凹線文を３条施す。	3392	38	図版47-⑪
	9	B区	DH～DJ-31・32区	Ⅲ層		弥生土器	高坏	端部は面取り調整。外面は刷毛目調整の後、端部直上にケズリを施す。内面は刷毛目調整を施す。	3378	38	図版47-⑫
	10	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	口縁端部は面取り調整。内外面ともにナデを施す。	3364	38	
	11	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	口縁部は短く外方に屈曲し、端部は面取り調整。外面は横ナデあるいはナデを施す。肩部内面には指頭痕が残り、胴部内面には縦方向にケズリが施される。	3337	38	図版47-⑬
	12	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	口縁部は短く上外方にのび端部は丸くおさめる。外面はナデおよび板状工具によるケズリ。内面は板状工具によるナデおよびケズリが施される。	3340	38	図版47-⑭
	13	B区	DI-31-16・21、DI-32-1・6・11区	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	口縁部外面は横ナデ、胴部外面には刷毛目調整。口縁部内面は板状工具によるナデや板状工具の押圧痕が残る。内面には多数の指頭痕が残る。	3403	38	図版47-⑮
	14	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	口縁端部は下方にわずかに拡張する。内外面ともに横ナデを施す。	3359	38	
	15	B区	DI-31区	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	内外面ともにナデを施す。	3322	38	
	16	B区	DH-32-10区	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	口縁部は大きく屈曲する。外面ナデを施す。	3357	38	
	17	B区	DH-32区	Ⅲ層		弥生土器	鉢	内面頸部と肩部との境には、稜が巡る。胴部内面にはケズリを施す。	3409	38	
	18	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	外面には２条の突帯および棒状浮文が貼り付けられる。突帯上部には、貝殻施文によるが刺突文が羽状に施される。	3314	38	図版47-⑰
	19	B区	DI-31-16・21、DI-32-1・6・11区	Ⅲ層下部		弥生土器	鉢	外面はナデ。特に底部との境には強いナデが施される。	3394	38	
	20	B区	DH32-14区	Ⅲ層		弥生土器	甕または鉢	外面はナデが施される。指頭痕が残る。	3400	38	
	21	B区	DI-32-11区	Ⅲ層上部		弥生土器	甕または鉢	外面は指頭痕、内面には爪痕が多数見られる。	3401	38	
	22	B区	DH-32区	Ⅲ層		弥生土器	甕または鉢	底部はわずかに上げ底。底部表面にはヘラミガキが施される。外面には刷毛目調整。内外面に指頭痕が残る。	3398	38	図版47-⑯
	23	B区	DI-32-11区	Ⅲ層下部		須恵器	坏身	口縁端部は丸くおさめる。内外面ともに回転横ナデを施す。	3300	38	
	24	B区	DI-31-20区	Ⅲ層上部		須恵器	坏身	たちあがり部を欠損。受け部は上外方にわずかにのびる。底部外面は自然釉と荒れにより調整不明。内面は回転横ナデを施す。	3303	38	
	25	B区	DH-31-14区	Ⅲ層下部		須恵器	甕	口縁端部は丸くおさめ、端部内面に段をもつ。頸部との境で一度屈曲し、直下に突帯を施す。内外面ともに回転横ナデを施す。	3302	38	図版47-⑱
	26	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		須恵器	甕	焼成不良。頸部片。内外面ともに表面は摩滅。	3323	38	
	27	B区	DH～DJ-31・32区	Ⅲ層		須恵器	壺または甕	外面は格子タタキ調整の後、カキメ。内面には同心円文当て具痕が残る。	3295	38	
	28	B区	DI-31-16区	Ⅲ層上部		須恵器	坏	調整は荒れにより不明。	3304	38	
	29	B区	DH～DJ-31・32区	Ⅲ層		土師器	皿	内外面ともに回転横ナデを施す。	3346	38	
	30	B区	DH-32区	Ⅲ層		土師器	甕	外面は横ナデ。口縁部内面は板状工具を用いて横方向にナデを施す。頸部内面には板状工具の押圧痕が残る。	3361	38	
	31	B区	調査区南部	Ⅲ層下部		陶器	擂り鉢	口縁端部は肥厚する。外面は横ナデを施す。内面擂り目あり。	3308	38	
	32	B区	DH-32区	Ⅲ層		備前焼	擂り鉢	外面はヘラケズリを施す。内面は擂り目あり。	3309	38	
図177	1	B区	DH-31-25区	Ⅲ層		石器	台石	上面に敲打痕が残る。砂岩。残存長6.6cm、幅16.2cm、厚さ7.7cm。残存重量978.6ｇ。	3416	40	図版52-③
	2	B区	DI-32-6・11区	Ⅲ層		石器	磨石	砂岩の礫を利用。側面に擦過痕が残る。全長7.3cm、幅6.8cm、厚さ6.2cm。重量370ｇ。	3447	40	図版49-⑨
	3	B区	DH-32-3区	Ⅲ層		石器	剥片	緑色片岩。残存長3.4cm、幅2.6cm、厚さ0.5cm。残存重量5.4ｇ。	3426	40	図版48-⑥

写真図版

1: 愛媛大学城北キャンパス(中央の運動場が調査地点、1998 年 12 月、南西から)

2: A 区調査区東壁土層

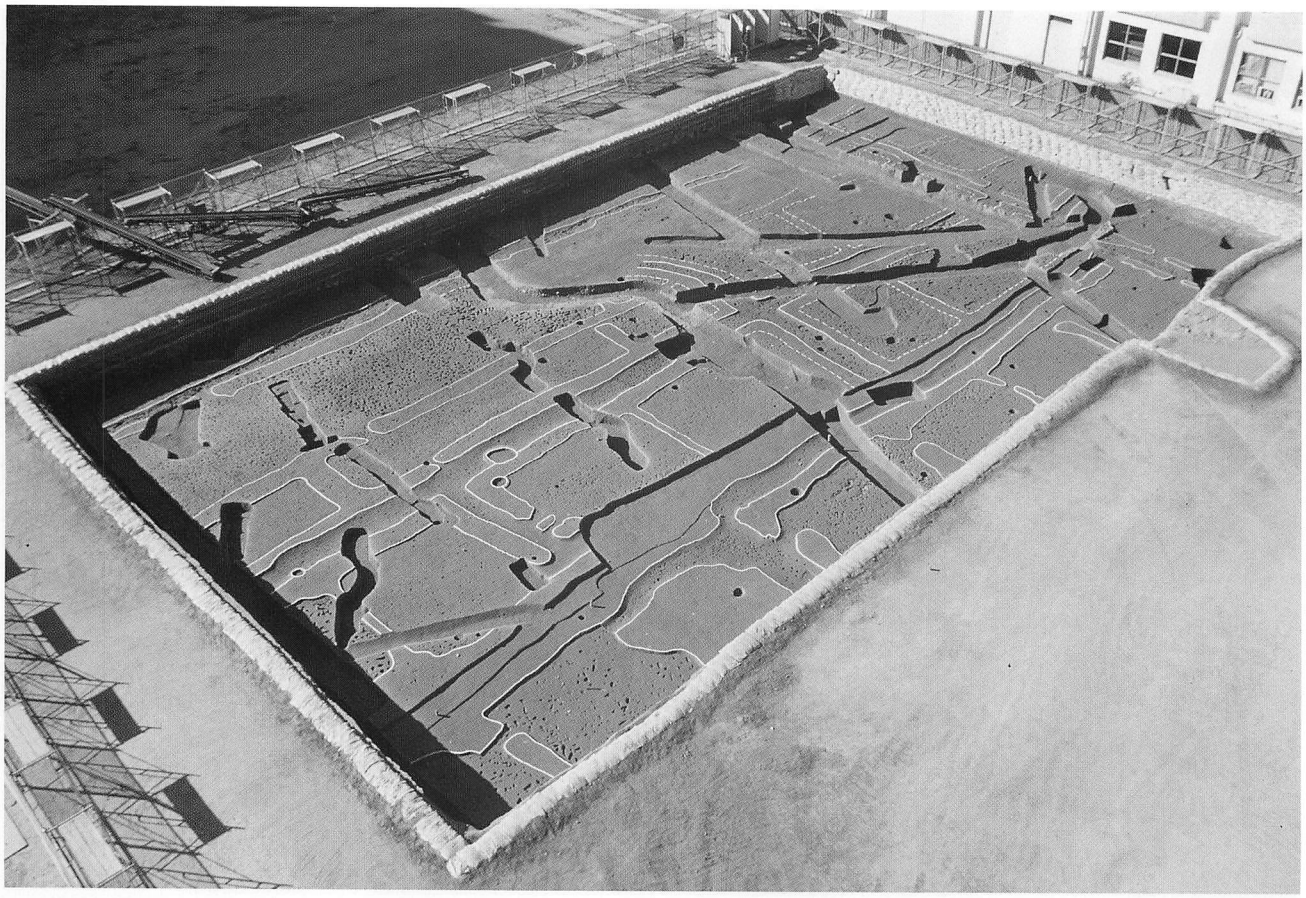
3: A 区調査区北壁中央～東部土層

図版２

1:A 区全景（調査前、南東から）

2:A 区表土剥ぎ作業（南東から）

1:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層完掘状況（東から）



2:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層完掘状況（北東から）

図版４

1:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層完掘状況（西から）

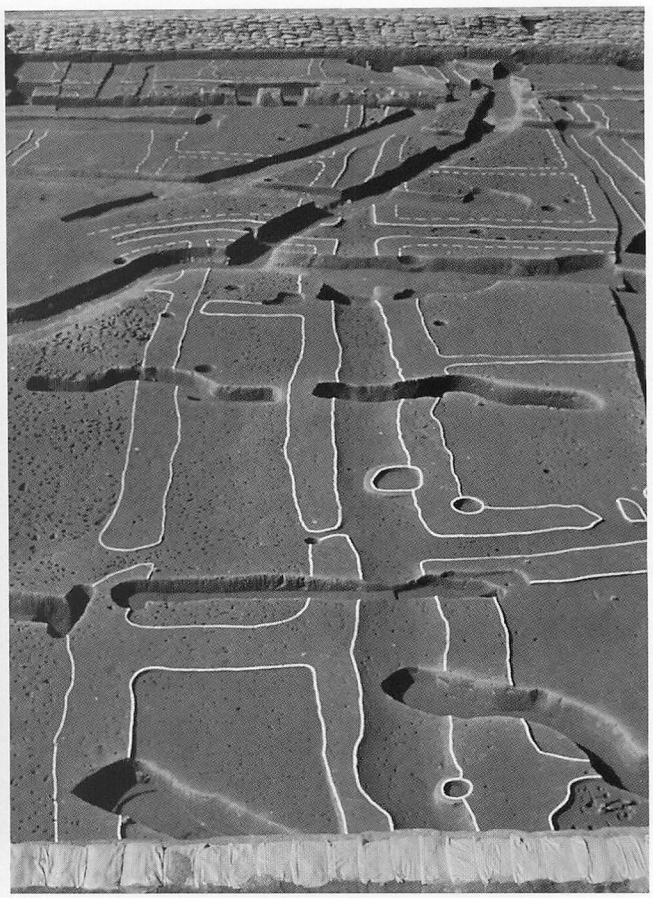
2:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層完掘状況（北西から）

1:A 区東半部Ⅱ-2-②（上層水田）層完掘状況（北西から）1

2:A 区東半部Ⅱ-2-②（上層水田）層完掘状況（北西から）2

図版６

1:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層 SD-10 周辺（西から）



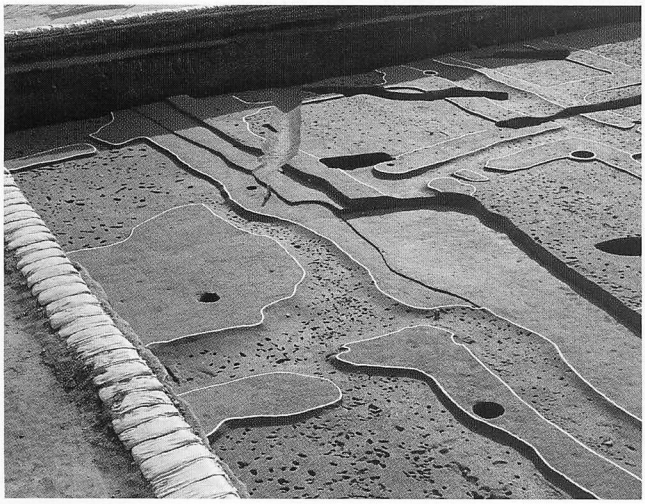
2:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層 SD-12 周辺（東から）

3:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層 SD-18 周辺（西から）

4:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層 SD-25（北から）

1:A 区北東部Ⅱ-2-②
（上層水田）層完掘状況
（北西から）

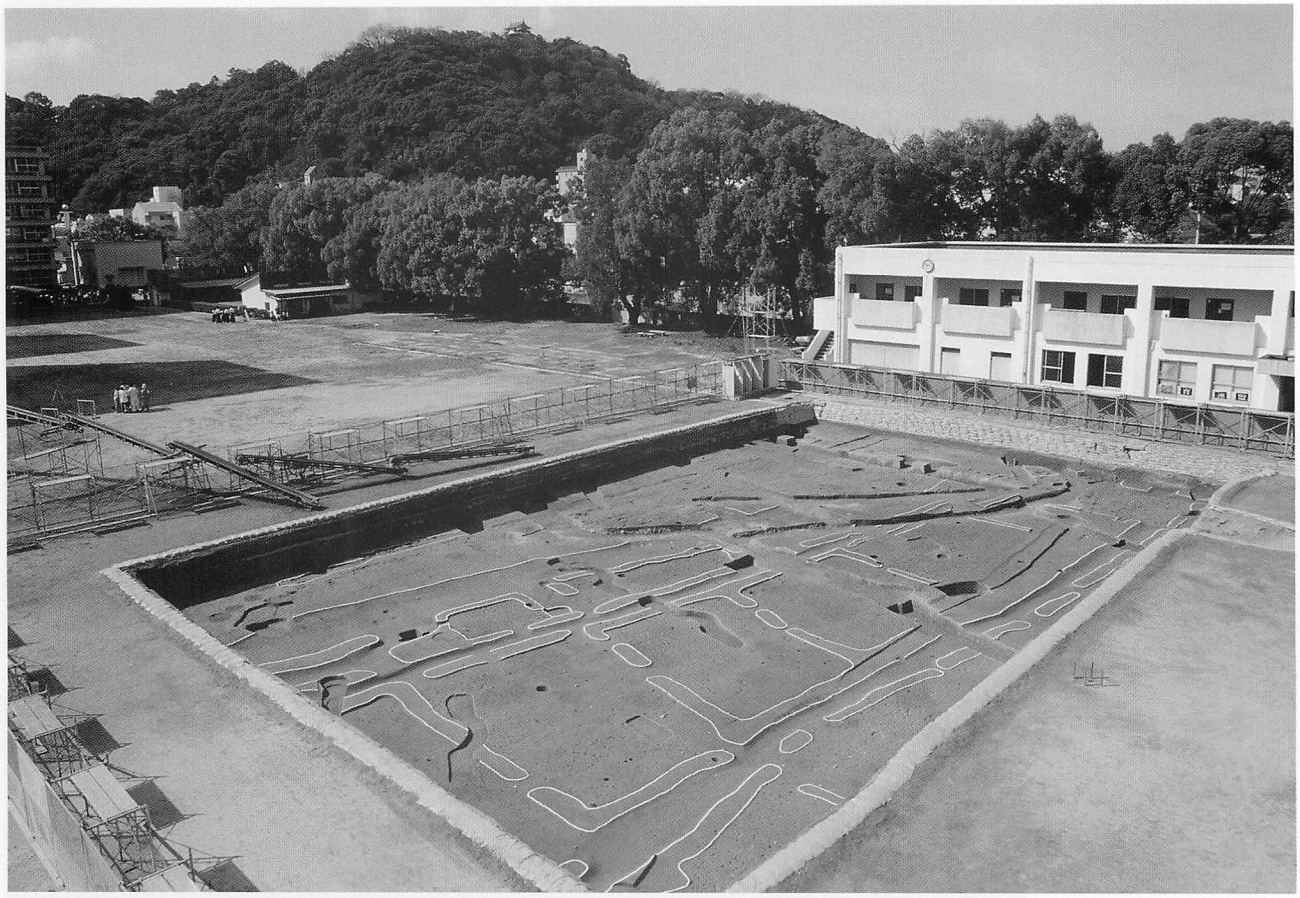
2:A 区北東部Ⅱ-2-②
（上層水田）層完掘状況
（西から）



3:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層 SD-8 ～ 10 東半部周辺（北西から）

4:A 区Ⅱ-2-②（上層水田）層 SD-10(DV-45-5 区）獣歯出土状況

図版 8



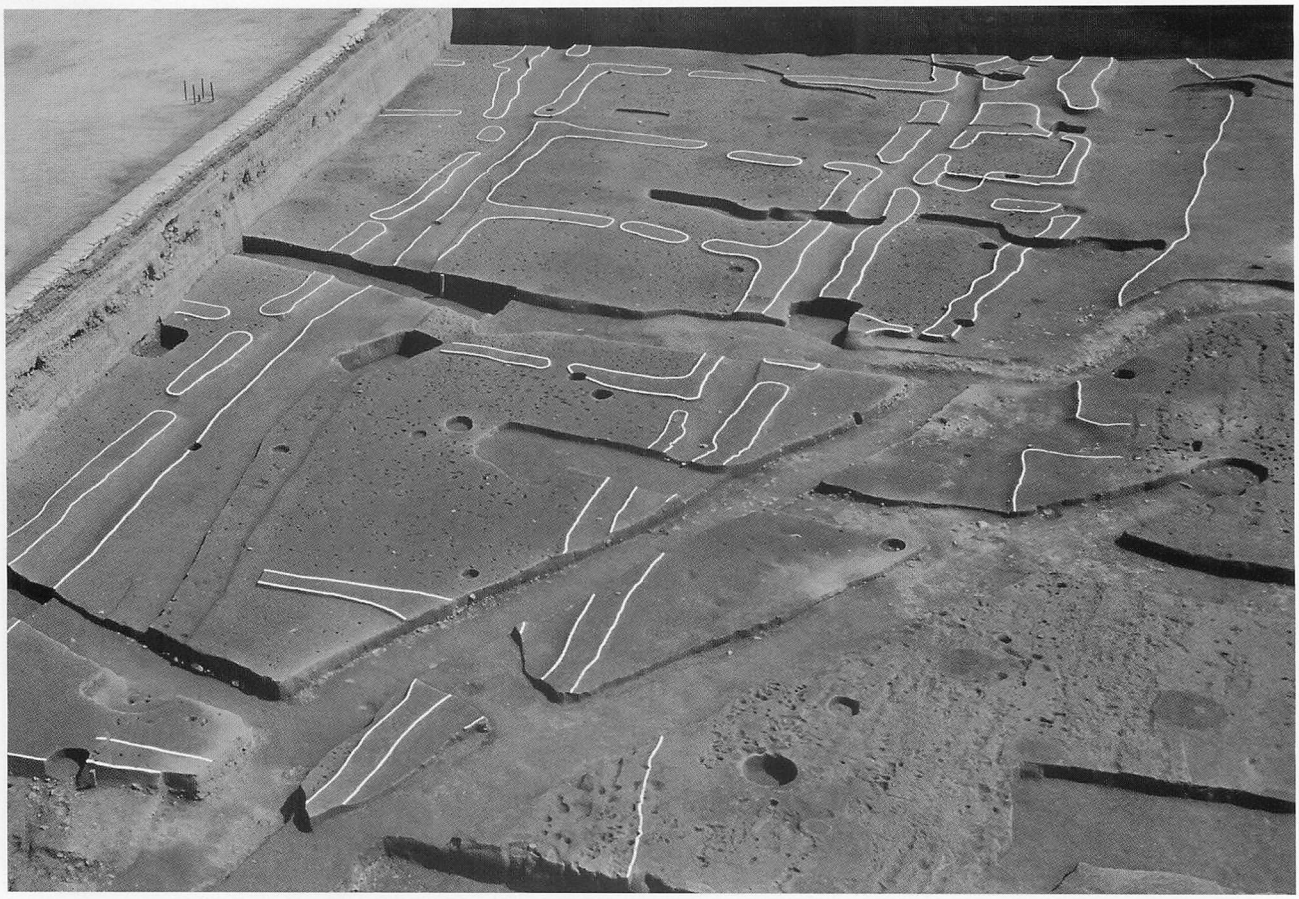
1：A区Ⅱ-2-④層（中層水田）完掘状況（北東から）

2：A区Ⅱ-2-④層（中層水田）完掘状況（東から）

1:A 区 Ⅱ-2-④（中層水田）層完掘状況（南西から）

2:A 区 Ⅱ-2-④（中層水田）層完掘状況（北西から）

図版 10



1:A 区北半部Ⅱ-2-④（中層水田）層完掘状況（南西から）

2:A 区Ⅱ-2-④（中層水田）層 SX-121（北西から）

1：A区DV～DX-41～43区Ⅱ-2-②層下層検出の耕作痕跡（東から）

2：A区DV～DX-41～43区Ⅱ-2-②層下層検出の耕作痕跡（西から）

図版 12

1：A区SD-208・209（東から）

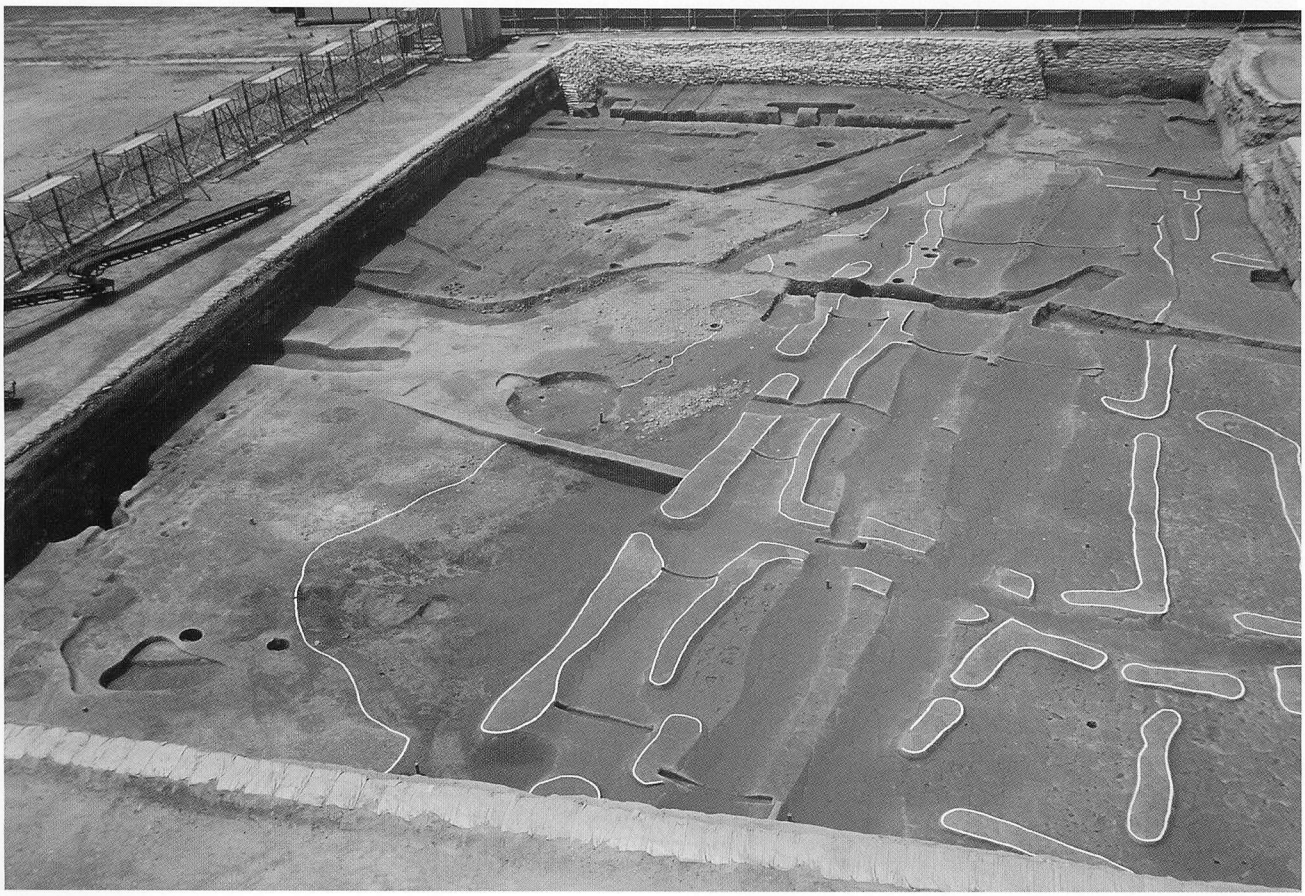
1：A区SD-208灰ブッロク出土状況（DW-44区、東から）

2：A区SK-201土層断面（東から）

図版 14

1:A 区Ⅱ-2-⑥（下層水田）層完掘状況（東から）1

1:A 区Ⅱ-2-⑥（下層水田）層完掘状況（東から）2



2:A 区Ⅱ-2-⑥（下層水田）層完掘状況（北東から）

図版 16

1:A 区Ⅱ-2-⑥（下層水田）層 SD-301・302（東から）

2:A 区Ⅱ-2-⑥（下層水田）層 SD-301 土層断面（DT-42 区、東から）

1：A区SR-400およびⅣ層上面出土遺構（東から）